

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年3月24日

【事業年度】 第91期(自平成22年1月1日至平成22年12月31日)

【会社名】 大倉工業株式会社

【英訳名】 Okura Industrial Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高瀨 和則

【本店の所在の場所】 香川県丸亀市中津町1515番地

【電話番号】 丸亀0877(56)1111番(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 コーポレートセンター担当兼経理部長 豊田 員史

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋3丁目13番2号(東池袋ビル)

【電話番号】 東京03(6912)5041番(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員東京支店長 安部 昭男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
大倉工業株式会社 東京支店
(東京都豊島区東池袋3丁目13番2号(東池袋ビル))
大倉工業株式会社 大阪支店
(大阪市西区立売堀1丁目3番13号(第三富士ビル))

(注) 上記支店は金融商品取引法の規定に基づく備置場所ではありませんが、投資者の便宜のために備え置き縦覧に供するものであります。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第87期	第88期	第89期	第90期	第91期
決算年月	平成18年12月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月
売上高 (百万円)	105,889	95,528	87,629	73,228	80,030
経常利益又は 経常損失() (百万円)	2,525	130	1,296	740	1,667
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	788	255	6,623	1,745	1,205
純資産額 (百万円)	42,090	40,334	32,333	30,305	31,386
総資産額 (百万円)	106,385	107,147	95,962	88,327	88,347
1株当たり純資産額 (円)	685.84	657.57	527.48	494.69	512.66
1株当たり当期純利益 金額又は1株当たり当 期純損失金額() (円)	12.76	4.16	108.01	28.49	19.69
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	11.69				
自己資本比率 (%)	39.5	37.6	33.7	34.3	35.5
自己資本利益率 (%)	1.9	0.6	18.2	5.6	3.9
株価収益率 (倍)	36.99				11.94
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,768	826	6,993	6,324	856
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,576	9,157	5,301	5,706	2,969
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	203	11,740	922	1,490	860
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	7,325	10,725	11,413	10,543	7,553
従業員数 [外、平均臨時 雇用人員] (人)	1,926 [524]	1,904 [557]	1,886 [539]	1,867 [575]	1,928 [563]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第88期、第89期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額及び株価収益率については、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

3. 第90期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額及び株価収益率については、当期純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

4. 第91期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第87期	第88期	第89期	第90期	第91期
決算年月	平成18年12月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月
売上高 (百万円)	101,481	80,005	65,277	53,732	60,022
経常利益又は 経常損失() (百万円)	2,136	275	2,218	934	437
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	757	381	6,973	2,284	726
資本金 (百万円)	8,619	8,619	8,619	8,619	8,619
発行済株式総数 (千株)	62,074	62,074	62,074	62,074	62,074
純資産額 (百万円)	41,209	39,331	30,984	28,418	29,019
総資産額 (百万円)	104,903	106,238	95,056	87,419	89,498
1株当たり純資産額 (円)	671.48	641.22	505.48	463.87	473.99
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間 配当額) (円)	7.50 ()	7.50 ()	()	()	3.00 ()
1株当たり当期純利益 金額又は1株当たり当 期純損失金額() (円)	12.25	6.21	113.72	37.28	11.87
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	11.23				
自己資本比率 (%)	39.3	37.0	32.6	32.5	32.4
自己資本利益率 (%)	1.8	0.9	19.8	7.7	2.5
株価収益率 (倍)	38.53				19.81
配当性向 (%)	61.2				25.3
従業員数 [外、平均臨時 雇用人員] (人)	1,314 [83]	1,132 [74]	1,107 [90]	1,082 [97]	1,096 [102]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第88期、第89期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額、株価収益率及び配当性向については、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

3. 第90期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

4. 第91期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【沿革】

- 昭和22年7月 高松市において旧倉敷飛行機株式会社の役員、従業員の一部をもって木材業を主体として、資本金195千円にて四国住宅株式会社を設立
- 昭和26年11月 商号を四国実業株式会社に変更
- 昭和30年9月 ポリエチレン加工業に進出のため丸亀工場建設に着手、昭和31年1月完成、操業を開始
- 昭和30年11月 商号を大倉工業株式会社に変更
- 昭和34年10月 東京工場完成、操業を開始
- 昭和35年12月 大阪工場及び福岡工場完成、操業を開始
- 昭和37年1月 大阪証券取引所市場第二部に上場
- 昭和37年4月 丸亀市中津町(現本社所在地)に本社工場(のちに丸亀第一工場)完成、操業を開始、これに伴い丸亀工場を廃止、本社事務所を本社工場内に移転
- 昭和37年10月 ラワン合板の生産に進出のため本社工場隣接地に第二工場(のちに丸亀第二工場)を建設、一部操業を開始、昭和38年3月完成
- 昭和39年1月 二次加工合板に進出のため本社工場内に加工合板工場(のちに丸亀第三工場、その後詫間工場内に移転)を建設、操業を開始
- 昭和39年5月 岡山工場完成、操業を開始
- 昭和39年7月 熊本工場完成、操業を開始
- 昭和39年10月 静岡工場完成、操業を開始
- 昭和41年1月 ハウス事業部を新設、土地造成並びに建物の建売事業を開始
- 昭和42年7月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 昭和42年11月 埼玉工場完成、操業を開始
- 昭和43年2月 詫間工場完成、操業を開始
- 昭和43年7月 冷凍事業部(のちに丸亀冷蔵営業所)を新設、旧丸亀工場敷地に冷凍冷蔵倉庫を建設、昭和44年2月操業を開始
- 昭和45年5月 東京・大阪両証券取引所市場第一部に上場
- 昭和46年1月 木材部門を分離し、大倉建販(株)に営業設備を賃貸してこの事業を譲渡
- 昭和46年2月 詫間工場内にパーティクルボード工場完成、操業を開始
- 昭和46年4月 滋賀工場完成、操業を開始、これに伴い大阪工場を廃止
- 昭和47年9月 本店を丸亀市に移転
- 昭和48年4月 東京・大阪両営業所を支店に昇格
- 昭和48年7月 高松市にビジネスホテル完成、子会社(株)オークラホテルを設立して運営を委託し営業を開始
- 昭和51年5月 詫間工場内に加工ボード工場完成、操業を開始
- 昭和52年5月 第四工場(現丸亀第四工場)完成、操業を開始
- 昭和53年7月 子会社大倉建販(株)及び(株)オークラホテルを吸収合併
- 昭和58年8月 港町工場完成、操業を開始
- 昭和61年4月 名古屋・福岡両営業所を名古屋支店、九州支店に昇格
- 昭和62年4月 新規材料事業部及びホテル事業部を新設
- 昭和63年3月 オークラホテル丸亀の営業を開始

平成2年9月	新規材料事業部の第二機能材工場完成、平成3年3月操業を開始
平成3年4月	詫間工場内に部材加工工場完成、操業を開始
平成3年9月	埼玉工場内に東松山製版工場完成、操業を開始
平成3年11月	電算室及び港町工場を分離独立し、オークラ情報システム(株)(現・連結子会社)及び(株)ユニオン・グラビア(現・連結子会社)を設立、平成4年1月業務開始
平成4年1月	丸亀第五工場完成、操業を開始
平成7年2月	仲南工場完成、操業を開始
平成7年12月	詫間工場内の合板工場を廃止
平成8年11月	オークラホテル丸亀及びオークラホテル高松を分社化し、(株)オークラホテル丸亀及び(株)オークラホテル高松を設立、平成9年1月1日より営業を開始
平成11年5月	丸亀第二工場内の合板工場を廃止
平成13年9月	福岡工場と熊本工場を統合し名称を九州工場(第二事業所)に変更、これに伴い福岡工場を廃止九州工場(第一事業所)完成、操業を開始
平成15年4月	住宅事業を分社化し、(株)オークラハウス(現・連結子会社)を設立し、営業を開始
平成15年5月	大阪証券取引所市場の上場を廃止
平成15年6月	丸亀第三工場を詫間工場内に移転し、詫間工場と統合
平成15年9月	丸亀冷蔵営業所を廃止
平成16年1月	(株)オークラホテル丸亀及び(株)オークラホテル高松が合併し、オークラホテル(株)(現・連結子会社)を設立
平成16年9月	合成樹脂事業の九州地区を分社化し、(株)九州オークラ(現・連結子会社)を設立
平成18年4月	丸亀第一工場を仲南工場へ移転統合するとともに分社化し、(株)オークラプロダクツ香川(現・連結子会社)を設立 岡山工場を分社化し、(株)OKプロダクツ岡山(現・連結子会社)を設立
平成19年5月	(株)九州オークラが(株)大成を吸収合併
平成19年7月	合成樹脂事業の主として関西・中部地区の汎用製品事業を分社化し、(株)関西オークラ(現・連結子会社)を設立 合成樹脂事業の関東以北地区の汎用製品事業を分社化し、(株)関東オークラ(現・連結子会社)を設立
平成20年4月	(株)OKプロダクツ岡山が中村化成(株)を吸収合併
平成20年11月	エビス工業(株)を清算
平成21年1月	高松営業所を廃止するとともにプレカット事業を分社化し、(株)オークラプレカットシステム(現・連結子会社)を設立

3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社15社及び関連会社4社で構成され、ポリエチレン、ポリプロピレンの各種製品、各種の光学機能性フィルム製品、加工合板、パーティクルボード及び加工ボード等の加工及び製造販売を主な内容とし、さらにホテルの運営、宅地造成及び建物の建築販売、不動産の賃貸等の事業活動を展開しております。

子会社及び関連会社の事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

合成樹脂事業

- (1) 製品の販売 (株)関西オークラ、(株)関東オークラ、(株)OKプロダクツ岡山、(株)九州オークラ、外商合資無錫大倉包装材料有限公司(以上子会社)
- (2) 製品の加工 (株)オークラプロダクツ香川、(株)カントウ、(株)オークラパック香川(以上子会社)、大宝(株)(関連会社)
- (3) 当社が製品を購入 (株)関西オークラ、(株)関東オークラ、(株)九州オークラ、(株)オークラプロダクツ香川、(株)OKプロダクツ岡山(以上子会社)
- (4) 当社が原材料を購入 (株)ユニオン・グラビア(子会社)

新規材料事業

- (1) 当社が製品を購入 オー・エル・エス(有)(関連会社)

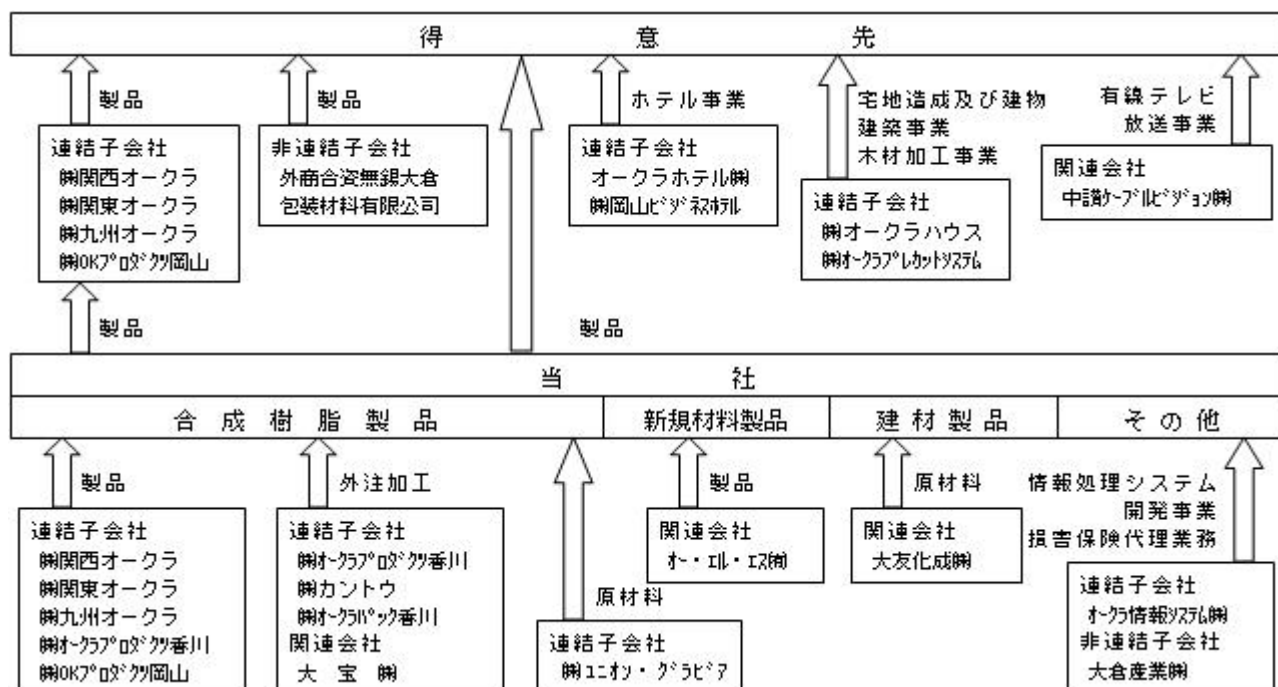
建材事業

- (1) 当社が原材料を購入 大友化成(株)(関連会社)

その他の事業

- (1) ホテル事業 オークラホテル(株)、(株)岡山ビジネスホテル(以上子会社)
 - (2) 木材加工事業 (株)オークラプレカットシステム(子会社)
 - (3) 宅地造成及び建物建築事業 (株)オークラハウス(子会社)
 - (4) 情報処理システム開発事業 オークラ情報システム(株)(子会社)
 - (5) 損害保険代理業務 大倉産業(株)(子会社)
 - (6) 有線テレビ放送事業 中讃ケーブルビジョン(株)(関連会社)
- (注) 当連結会計年度において、非連結子会社であった大宝(株)は、当社が所有する株式の一部を売却した結果、関連会社となりました。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱関西オークラ	滋賀県 東近江市	100	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製造加工及び販売を行っております。 役員の兼任3名(うち当社社員1名)、転籍2名
㈱カントウ	埼玉県 東松山市	10	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製袋加工を行っております。 また、当社が土地及び建物を賃貸しております。 役員の兼任4名(うち当社社員4名)
㈱オークラプロダクツ香川	香川県 仲多度郡 まんのう町	50	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製造及び加工を行っております。 また、当社が土地及び建物を賃貸しております。 役員の兼任3名(うち当社社員2名)、転籍1名
オークラ情報システム㈱	香川県 丸亀市	12	その他の事業	100.0	当社のコンピューターの運営管理業務を行っております。 また、当社が土地及び建物を賃貸しております。 役員の兼任1名(うち当社社員1名)、転籍2名
㈱ユニオン・グラビア	香川県 丸亀市	10	合成樹脂事業	100.0	同社の合成樹脂製品印刷用版ロールを当社が購入しております。 また、当社が土地及び建物を賃貸しております。 役員の兼任3名(うち当社社員2名)、転籍2名
㈱岡山ビジネスホテル	岡山市 北区	25	その他の事業	100.0	当社が資金貸付を行っております。 役員の兼任2名(うち当社社員1名)、転籍1名
㈱オークラパック香川	香川県 丸亀市	10	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製袋加工を行っております。 また、当社が土地及び建物を賃貸しております。 役員の兼任3名(うち当社社員3名)、転籍1名
オークラホテル㈱	香川県 丸亀市	100	その他の事業	100.0	当社が土地及び建物を賃貸しております。 また、当社が資金貸付を行っております。 役員の兼任2名(うち当社社員1名)、転籍2名
㈱関東オークラ	静岡県 菊川市	100	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製造加工及び販売を行っております。 役員の兼任2名(うち当社社員1名)、転籍2名
㈱OKプロダクツ岡山	岡山市 北区	60	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製造加工及び販売を行っております。 また、当社が建物を賃貸しております。 役員の兼任2名(うち当社社員2名)、転籍2名
㈱九州オークラ	熊本県 熊本市	100	合成樹脂事業	100.0	当社の合成樹脂製品の製造加工及び販売を行っております。 役員の兼任3名(うち当社社員2名)、転籍1名
㈱オークラハウス	香川県 丸亀市	40	その他の事業	100.0	役員の兼任2名(うち当社社員2名)、転籍1名
㈱オークラプレカット システム	香川県 丸亀市	100	その他の事業	100.0	当社が土地及び建物を賃貸しております。 また、当社が資金貸付を行っております。 役員の兼任2名(うち当社社員1名)、転籍1名

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。
2. 上記の会社は、特定子会社に該当いたしません。
3. 上記の会社は、有価証券届出書又は有価証券報告書は提出していません。
4. 上記の会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合がそれぞれ10%以下であるため主要な損益情報等の記載を省略しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)
合成樹脂事業	1,266 [336]
新規材料事業	177 [24]
建材事業	169 [35]
その他の事業	205 [155]
全社(共通)	111 [13]
合計	1,928 [563]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は [] 内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除いております。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
4. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,096 [102]	38.0	16.1	4,835,372

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は [] 内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 従業員数は、当社から他社への出向者を除いております。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
4. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

現在当社グループには労働組合法上の労働組合はありませんが、従業員の親睦と福利の増進及び職場環境の向上をはかる目的をもって大倉親交会が結成されており、会社と協調して社業の発展に努力しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国経済は、エコカー減税やエコポイント制度等の経済対策効果とアジアを中心とした新興国の外需に牽引される形で、総じて緩やかに回復してまいりました。しかしながら、秋頃からは、駆け込み需要の反動による個人消費の落ち込みや円高の進行に伴う輸出減少などにより、足踏みの様相を呈してまいりました。

このような状況の下、当社グループでは、細やかな拡販努力を重ねるとともに、前連結会計年度に引き続き生産効率の改善と固定費の削減に努めました。

その結果、売上高は800億3千万円（前期比9.3%増）、営業利益は20億1千5百万円（前期比87.7%増）、経常利益は16億6千7百万円（前期比125.1%増）となりました。当期純利益はホテル事業で6億9千8百万円の減損損失を計上したものの、前期より29億5千1百万円改善し12億5百万円（前期は純損失17億4千5百万円）となりました。この主たる要因は、経常利益までの本業での改善に加えて、連結納税制度導入による法人税等の減少、今後1年分の税金負担軽減見込額を繰延税金資産として計上したことによる法人税等調整額のマイナス計上等の影響によるものであります。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

〔合成樹脂事業部門〕

新規顧客の獲得、さらには景気の回復にも支えられ、電子材料用保護フィルムを中心に全ての製品グループで販売数量が増加し、売上高は496億8千8百万円（前期比6.3%増）となりました。

一方、営業利益は、原材料価格上昇の影響により40億5千9百万円（前期比7.8%減）となりました。

〔新規材料事業部門〕

好調なディスプレイ市場を背景に、液晶表示関連材料は液晶テレビ用途に加え、スマートフォン用途でも需要が拡がり、販売数量が大幅に増加しました。

この結果、売上高は176億3千8百万円（前期比22.9%増）、営業利益は7億円（前期比169.6%増）となりました。

〔建材事業部門〕

景気低迷により新設住宅着工戸数が低水準で推移するなか、既存先への深耕と新用途での拡販により、主力製品であるパーティクルボードを中心に、販売数量を伸ばしました。

この結果、売上高は83億2千7百万円（前期比8.4%増）、営業損失はコストの最適化と減価償却費の減少により14億1千6百万円（前期は営業損失23億8千4百万円）となりました。

〔その他の事業部門〕

木材加工事業では新たに金物工法への取組みをはじめたことにより売上を伸ばしましたが、宅地造成及び建物建築事業では販売戸数が下回りました。

この結果、売上高は43億7千6百万円（前期比1.5%減）、営業利益は2億1千8百万円（前期比9.6%減）となりました。

所在地別セグメントの業績は、在外子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

(注) 上記金額には、消費税等を含んでおりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ29億8千9百万円（28.4%）減少し、75億5千3百万円となりました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は8億5千6百万円（前連結会計年度比86.5%減）となりました。
主な内容は減価償却費54億4千4百万円、減損損失6億9千8百万円、税金等調整前当期純利益6億1千万円による資金の増加と、売上債権の増加額55億4千5百万円、未払消費税等の減少額3億7千2百万円による資金の減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は29億6千9百万円（前連結会計年度比48.0%減）となりました。
これは主に合成樹脂事業における製造設備等の有形固定資産の取得による支出29億9千1百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は8億6千万円（前連結会計年度比42.2%減）となりました。
主な内容は長期借入れによる収入16億9千万円による資金の増加と、長期借入金の返済による支出19億3千7百万円、リース債務の返済による支出5億9千3百万円による資金の減少であります。

なお、営業活動により増加した資金は8億5千6百万円、財務活動の結果減少した資金は8億6千万円となっておりますが、当連結会計年度において売上債権や受取手形の流動化等による資金調達を廃止した影響額48億9千8百万円を考慮しますと、営業活動により増加した資金は57億5千4百万円、財務活動の結果減少した資金は57億5千8百万円であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
合成樹脂事業 合成樹脂製品	46,566	+ 6.2
新規材料事業 光学機能性フィルム等	16,614	+ 20.6
建材事業 加工合板	2,404	+ 2.8
パーティクルボード	4,255	+ 22.6
加工ボード	1,970	+ 8.0
合計	71,810	+ 10.1

(注) 1. 金額は、販売価格によっております。

2. パーティクルボードには加工ボード用台板の生産高が1,412百万円含まれております。

(2) 受注状況

当社グループはその他の事業のうち、宅地造成及び建物建築事業において一部受注生産を行っており、その受注状況は次のとおりであります。

その他の製品については見込生産を主として行っているので特記すべき受注生産はありません。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	前期比(%)	受注残高(百万円)	前期比(%)
その他の事業	553	0.7	197	10.5

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(百万円)	前期比(%)
合成樹脂事業 合成樹脂製品	49,688	+ 6.3
新規材料事業 光学機能性フィルム等	17,638	+ 22.9
建材事業 加工合板	2,483	4.1
パーティクルボード	2,665	+ 32.6
加工ボード	1,719	+ 5.8
その他建築資材	1,458	+ 0.1
小計	8,327	+ 8.4
その他の事業	4,376	1.5
合計	80,030	+ 9.3

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
住友化学株式会社	10,700	14.6	11,576	14.5

2. 上記金額には、消費税等を含んでおりません。

3 【対処すべき課題】

緩やかに回復してまいりました国内景気も、駆け込み需要の反動と円高の進行等の影響により足踏み状態となり、依然として先行きには不透明感が漂っております。当社グループを取り巻く事業環境においても、原材料価格の上昇や住宅着工低迷の長期化等の要因により、先行き予断を許さない状況が続くものと思われれます。このような状況の下、当社グループの当面の課題は、第三次中期経営計画を計画どおり達成することにあります。

合成樹脂事業部門では、生産コストの最適化を進めるとともに、地域に密着した細やかな販売を目指します。機能製品では、クリーンキャスト機による産業資材、機能性シュリンクフィルム of 拡大を図ります。

新規材料事業部門では、新素材を活用した液晶パネル向け位相差フィルムの取扱拡大を図ります。また、精密塗工技術によりタッチパネル市場での拡販を目指します。

建材事業部門のパーティクルボード事業については、既存製品や平成22年より販売を開始したフロア用台板の拡販と構造用ボードでの新用途開拓を行います。市場が縮小している化粧板事業では、製品構成の見直しを図っていくとともに合板からパーティクルボードを使った新しいラミネート事業への再構築を実施します。

成長分野では、太陽電池裏面保護用シート、リチウムイオン電池外包材等、エネルギー関連製品について、プライオリティの高いテーマとして当社グループの資源を集中し、早期の安定事業化を図ります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼし、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられるリスクには以下のようなものがあります。

当社グループといたしましては、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 合成樹脂事業の経営成績が、原料価格の変動等により影響を受ける可能性があることについて

当社の合成樹脂事業で製造するフィルムの主原料は石油化学製品であるため、国際的な原油価格の変動が数ヵ月後の原料価格動向に影響を及ぼす傾向があります。

(2) 住友化学株式会社への依存度が高いことについて

当社の新規材料事業における光学機能性フィルム関連製品の過半は住友化学株式会社へ販売しておりますが、将来にわたり当社製品が同社に採用される保証はありません。

(3) 建材事業の経営成績が、新設住宅着工戸数の増減により影響を受ける可能性があることについて

当社の建材事業の製品は、主に住宅の建築資材となっているため新設住宅着工戸数の減少による需要の減少及び価格競争の激化により、経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 連結子会社を除く関係会社に対する貸付金及び保証債務について

当社は、連結子会社を除く中讃ケーブルビジョン(株)等の関係会社に対し、事業活動及び資金調達を円滑に行うため資金貸付け及び債務保証を行っております。当連結会計年度末現在の貸付金及び保証債務の合計は5億5千2百万円です。

今後、これらの関係会社(非連結)の業績動向により債務履行又は追加引当を要する場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(5) 財務制限条項に抵触するリスクについて

当社は、効率的な資金調達のために取引金融機関7社とコミットメントライン契約及び取引金融機関10社とタームローン契約(分割実行可能期間付金銭消費貸借契約)を締結しており、それぞれの契約には下記の財務制限条項が付されており、

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ264億円以上に維持すること。

各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ236億円以上に維持すること。

各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益が、平成19年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成20年12月期までの損失については考慮しないものとする。

各年度の決算期における単体の損益計算書に示される営業損益が、平成20年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成21年12月期までの損失については考慮しないものとする。

当該条項に抵触した場合には、多数貸付人の請求により、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。

(6) 固定資産の減損について

新規材料事業部など一部の分野においては、技術革新のスピードが速いため、これまでに投資した設備について、資金回収が終わらないうちに陳腐化し、その結果、固定資産除売却損や減損損失などの特別損失が発生する可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社では、R&Dセンター、合成樹脂事業部の商品化グループ及び建材事業部の商品企画部が研究開発活動を行っております。

当社における研究開発の基本方針は、コア・コンピタンスとしての「加工技術」の向上及び「機能材料」の開発であり、これらは競争戦略である「差別化・特殊化」を達成するための鍵と捉えております。当社の強みである押出・延伸等のプラスチック加工技術を基礎に、より競争力のある製品を生み出すべく経営資源を集中し、グループ一体となって取り組んでおります。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は11億3千7百万円であり、当連結会計年度末における特許権及び実用新案権の総数は138件であります。

当連結会計年度における各事業部門別の研究開発の状況は次のとおりであります。

R&Dセンターは、全社的課題に係る研究開発を行っており、「環境・新エネルギー」「光・エレクトロニクス」「バイオ・メディカル」の3つの成長分野を中心に次世代事業の創出に取り組むことを方針としております。

新エネルギー分野では、リチウムイオン電池や電気二重層キャパシタ等の新しい蓄電装置関連部材の開発を行い、今後大きな需要が見込まれる車載用途において、顧客の認定を得ることができました。また、量産化の目処が立ったため、7月より合成樹脂事業部内に発足させた新エネルギーマテリアル事業推進部に移管し、本格量産設備の導入を進めております。

光・エレクトロニクス分野では、新規樹脂を用いた光学フィルム製膜の目処がついたことから、一貫生産設備を導入し、事業化に向けた体制構築を進めております。また、精密塗工技術による塗布型透明導電フィルムの量産化を進めており、タッチパネル用部材において一部採用実績を得ることができました。

当センターに係る研究開発費は6億6千2百万円であります。

合成樹脂事業部商品化グループでは、中期経営計画で重点課題として掲げております太陽電池バックシートの開発に注力しました。

独自のフィルム加工技術を駆使して開発した、廉価で耐久性の高い新しいタイプのバックシートは、現在、太陽電池メーカー数社にて評価をいただいております。また、技術的な目処がついたことから、7月より新エネルギーマテリアル事業推進部に移管し、本格的な事業化に向けた体制構築を進めております。

当事業に係る研究開発費は4億2千万円であります。

建材事業部の商品企画グループでは、地球温暖化抑制と資源の有効利用を促進する製品として、建築廃材等の木材を主原料としたパーティクルボードを中心に、環境分野へ貢献する製品開発に取り組んでおります。

特に、パーティクルボード新用途分野であります耐力壁の開発、床用基材の開発を重点テーマとしております。

当事業に係る研究開発費は3千4百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、開示に影響を与えると思われる見積りは合理的な基準に基づき、適正に実施されておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況、1 連結財務諸表等、(1) 連結財務諸表、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

(2) 財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比べ2千万円増加し883億4千7百万円となりました。

その主な内訳は、受取手形及び売掛金など流動資産の増加32億6千3百万円及び有形固定資産など固定資産の減少32億4千2百万円によるものであります。

一方、負債につきましては、支払手形及び買掛金など流動負債の増加7千8百万円、リース債務など固定負債の減少11億3千8百万円により、前連結会計年度末に比べ10億6千万円減少し569億6千1百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金の増加12億5百万円などにより、前連結会計年度末に比べ10億8千万円増加し、313億8千6百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べて1.2ポイント上昇し、35.5%となりました。

(3) 経営成績の分析

経営成績の分析につきましては「1. 業績等の概要、(1) 業績」を参照願います。

(4) 資金の流動性について

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ29億8千9百万円（28.4%）減少し、75億5千3百万円となりました。

なお、キャッシュ・フロー指標のトレンドは以下のとおりであります。

	平成20年12月期	平成21年12月期	平成22年12月期
自己資本比率(%)	33.7	34.3	35.5
時価ベースの自己資本比率(%)	13.4	17.8	16.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	4.3	4.6	36.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ	17.2	10.2	1.6

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

2. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。

4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としていません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度は、製造設備の増強、合理化を中心に総額32億8千5百万円の投資を行いました。事業の種類別セグメントごとの内訳は、次のとおりであります。

[合成樹脂事業]

当連結会計年度は、丸亀第五工場の合成樹脂フィルム製造設備の新設等を中心とする総額20億3千1百万円の投資を行いました。

なお、経常的な設備の更新のための除却を除き重要な設備の除却又は売却はありません。

[新規材料事業]

当連結会計年度は、光学フィルム製造設備の更新、合理化等を中心とする総額2億6千万円の投資を行いました。

なお、経常的な設備の更新のための除却を除き重要な設備の除却又は売却はありません。

[建材事業]

当連結会計年度は、詫間工場のパーティクルボード製造設備の更新、合理化等を中心とする総額3億8千7百万円の投資を行いました。

なお、経常的な設備の更新のための除却を除き重要な設備の除却又は売却はありません。

[その他の事業]

当連結会計年度は、R&Dセンターの光学フィルム開発設備の移設、改造等を中心とする総額6億6百万円の投資を行いました。

なお、経常的な設備の更新のための除却を除き重要な設備の除却又は売却はありません。

上記の記載金額には、無形固定資産への投資も含めております。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成22年12月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の 種類別 セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
丸亀第四工場 (香川県丸亀市)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	637	974	469 (49,589)		150	2,232	129 [2]
丸亀第五工場 (香川県丸亀市)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム 生産設備	1,355	619	414 (50,947)		531	2,920	108 [14]
仲南工場 (香川県仲多度郡 まんのう町)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	806	520	1,092 (146,113)		83	2,503	83 [2]
埼玉工場 (埼玉県東松山市)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム 生産設備及び製版設備	1,173	438	103 (69,446)		21	1,737	81 [6]
商品化グループ (香川県丸亀市) 3	合成樹脂 事業	研究開発設備	483	815			170	1,469	54 [3]
新規材料事業部工場 (香川県丸亀市) 3	新規材料 事業	高機能性フィルム生産 設備及び研究開発設備	5,608	2,433		6	110	8,158	177 [29]
詫間工場 (香川県三豊市)	建材事業	加工合板 パーティクルボード 加工ボード生産設備	1,037	3,557	970 (169,988)	19	216	5,800	102 [26]
賃貸部門 (福岡市東区) 4	その他の 事業	賃貸設備	569	0	148 (18,382)		12	731	
本社 (香川県丸亀市) 3	全社	研究開発設備等	1,036	223	109 (97,877)		460	1,831	111 [13]

(2) 国内子会社

平成22年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の 種類別 セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
(株)関西オークラ	本社・工場 (滋賀県 東近江市)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	529	399	257 (81,969)		177	1,364	126 [29]
(株)関東オークラ 5	本社・工場 (静岡県菊川市)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	234	335	171 (16,220) [3,604]		33	773	83 [41]
(株)九州オークラ	本社・工場 (熊本県熊本市)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	1,067	342	482 (66,205)		6	1,899	96 [17]
(株)オークラ プロダクツ香川	本社・工場 (香川県仲多度郡 まんのう町)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	299	204		30	4	538	78 [90]
(株)OKプロダクツ 岡山	本社・工場 (岡山市北区)	合成樹脂 事業	ポリエチレンフィルム ポリプロピレンフィル ム生産設備	234	191	7 (8,395)		22	455	55 [35]
(株)ユニオン・ グラビア	本社・工場 (香川県丸亀市)	合成樹脂 事業	グラビア印刷用 製版設備	232	233	6 (9,623)		18	490	41 [15]
オークラホテル(株)	オークラホテル 丸亀 (香川県丸亀市)	その他の 事業	ホテル設備	1,427	18	449 (11,572)		44	1,939	80 [65]
オークラホテル(株)	オークラホテル 高松 (香川県高松市)	その他の 事業	ホテル設備	368	5	46 (5,172)	16	32	469	24 [38]
(株)岡山ビジネス ホテル	岡山ビジネス ホテル (岡山市北区)	その他の 事業	ホテル設備	340	0	365 (2,654)	15	12	733	13 [32]

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定の合計であります。
2. 金額には消費税等は含まれておりません。
3. 合成樹脂事業の商品化グループ、新規材料事業の新規材料事業部工場及び全社の本社は香川県丸亀市中津町の土地(97,877㎡)を共有しております。
4. 提出会社が連結子会社以外の者へ土地(18,382㎡)、建物及び構築物を賃貸しております。
5. (株)関東オークラは土地の一部を賃借しております。年間賃借料は6百万円であり、土地面積については、[]で外書しております。
6. 現在休止中の主要な設備はありません。
7. 従業員数の[]は、臨時従業員数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資は、今後の需要予測、投資に対する回収期間等を総合的に勘案して計画しております。原則としてグループ各社が個別に設備投資計画を策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、当社を中心に調整を図っております。

(1) 新設

会社名 事業所名	所在地	事業の種類 別セグメン トの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社 丸亀第五工場	香川県 丸亀市	合成樹脂 事業	合成樹脂 フィルム 製造設備他	500	466	自己資金 借入金	平成22年 2月	平成23年 4月	

(2) 除却等

経常的な設備の更新のための除・売却を除き、重要な設備の除・売却の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,108,000
計	140,108,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年3月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	62,074,351	62,074,351	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)
計	62,074,351	62,074,351		

(注) 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成15年1月1日～ 平成15年12月31日	997	62,074		8,619		9,068

(注) 発行済株式総数の減少は、自己株式の消却によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成22年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		40	31	164	49	1	4,799	5,084	
所有株式数(単元)		22,332	463	12,985	3,161	1	22,338	61,280	794,351
所有株式数の割合(%)		36.44	0.76	21.19	5.16	0.00	36.45	100.00	

(注) 自己株式851,295株は、「個人その他」に851単元、「単元未満株式の状況」に295株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成22年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
住友化学株式会社	東京都中央区新川二丁目27番1号	4,818	7.76
株式会社中国銀行	岡山県岡山市北区丸の内1丁目15番20号	3,011	4.85
オークラ共栄会	香川県丸亀市中津町1515番地	2,467	3.97
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	2,286	3.68
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	1,940	3.12
株式会社百十四銀行	香川県高松市亀井町5番地の1	1,920	3.09
住友林業株式会社	東京都千代田区大手町一丁目3番2号	1,579	2.54
大倉工業従業員持株会	香川県丸亀市中津町1515番地	1,430	2.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,402	2.25
J S R 株式会社	東京都港区東新橋一丁目9番2号	1,317	2.12
計		22,171	35.72

(注) 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式)普通株式 851,000		単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,429,000	60,429	同上
単元未満株式	普通株式 794,351		1単元(1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	62,074,351		
総株主の議決権		60,429	

(注) 単元未満株式数には、当社保有の自己株式295株が含まれております。

【自己株式等】

平成22年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
大倉工業株式会社	香川県丸亀市中津町 1515番地	851,000		851,000	1.37
計		851,000		851,000	1.37

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	39,745	9,751,717
当期間における取得自己株式	4,317	1,241,649

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成23年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	851,295		855,612	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成23年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主への利益還元を経営の最重要課題の一つと考え、業績や将来の事業展開に必要な備えなどを総合的に勘案し、安定的な配当を行うことを基本方針としております。

当社の余剰金の配当は、「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めておりますが、業績動向や設備投資、研究開発投資等の進捗及び成果をより慎重に見極めた上で株主総会に上程することを基本とし、年1回の配当としたいと考えております。配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、この基本方針並びに業績を勘案し、1株当たり3円と決定いたしました。内部留保資金につきましては、新たな成長につながる研究開発及び戦略投資に充当し、企業価値の増大に努めてまいり所存であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年3月24日 定時株主総会決議	183	3.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第87期	第88期	第89期	第90期	第91期
決算年月	平成18年12月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月
最高(円)	790	535	298	288	282
最低(円)	411	243	155	170	190

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	266	255	232	226	222	249
最低(円)	246	214	201	190	196	208

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		鴻池 正幸	昭和21年2月17日生	昭和45年4月 当社入社 平成3年4月 当社新規材料事業部次長 平成7年3月 当社取締役 平成7年3月 当社新規材料事業部長 平成11年10月 当社経営企画室長 平成12年5月 オー・エル・エス有限会社代表取締役専務 平成13年3月 当社常務取締役 平成13年6月 中讃ケーブルビジョン株式会社代表取締役(現任) 平成15年1月 当社代表取締役社長 平成22年1月 当社代表取締役会長(現任)	(注) 1	129
代表取締役 社長		高濱 和則	昭和25年2月13日生	昭和50年4月 当社入社 平成15年1月 当社新規材料事業部長 平成15年3月 当社取締役 平成16年6月 オー・エル・エス有限会社代表取締役専務 平成18年1月 当社常務取締役 平成18年1月 当社研究・技術開発担当 平成19年1月 当社R&Dセンター担当 平成21年3月 当社代表取締役専務取締役 平成21年3月 当社経営計画担当兼新規材料事業部担当 平成22年1月 当社代表取締役社長(現任)	(注) 1	56
常務取締役	合成樹脂 事業部長	長尾 和任	昭和21年12月8日生	昭和44年4月 当社入社 平成16年9月 当社合成樹脂事業部製造支援部長兼技術開発部長兼品質 管理部長 平成17年3月 当社取締役 平成18年2月 当社合成樹脂事業部産業資材グループ長 平成19年1月 当社合成樹脂事業部長(現任)兼商品化グループ長 平成19年1月 中外合資無錫大倉環宇包装材料有限公司董事長 平成20年6月 外商合資無錫大倉環宇包装材料有限公司(現外商合資無 錫大倉包装材料有限公司)執行董事(現任) 平成21年3月 当社常務取締役(現任)	(注) 1	29
常務取締役	コーポ レートセ ンター担 当兼経理 部長	豊田 員史	昭和24年9月5日生	昭和49年4月 三井信託銀行株式会社(現中央三井信託銀行株式会社)入 社 平成18年1月 当社入社 平成21年1月 当社コーポレートセンター経理部長(現任) 平成21年3月 当社取締役 平成22年3月 当社常務取締役(現任) 平成22年3月 当社コーポレートセンター担当(現任)	(注) 1	9
取締役	合成樹脂 事業部事 業支援部 長兼新エ ネルギー マテリア ル事業推 進担当	村上 静一郎	昭和26年2月25日生	昭和47年4月 当社入社 平成18年2月 当社合成樹脂事業部ラミネートグループ長 平成19年1月 当社合成樹脂事業部事業支援グループ長 平成19年3月 当社取締役(現任) 平成20年4月 当社合成樹脂事業部事業支援部長(現任) 平成22年7月 当社新エネルギーマテリアル事業推進担当(現任)	(注) 1	34
取締役	建材事業 部長兼建 装材グ ループ長	山田 和裕	昭和32年3月10日生	昭和55年4月 当社入社 平成20年10月 当社建材事業部事業推進部長兼R&Dセンター開発部担当 部長 平成21年3月 当社取締役(現任) 平成22年3月 当社建材事業部長(現任) 平成22年7月 当社建材事業部建装材グループ長(現任)	(注) 1	8

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	コーポレートセンター総務部長兼環境安全・品質保証担当兼コーポレートセンター管轄子会社担当	田中 祥友	昭和30年2月22日生	昭和52年4月 当社入社 平成19年6月 株式会社関西オークラ代表取締役社長 平成21年4月 当社執行役員 平成22年2月 当社コーポレートセンター総務部長(現任) 平成22年3月 当社取締役(現任) 平成23年1月 当社コーポレートセンター環境安全・品質保証担当(現任) 平成23年3月 当社コーポレートセンター管轄子会社担当(現任)	(注) 1	9
取締役	合成樹脂事業部副事業部長	神田 進	昭和29年7月8日生	昭和52年4月 当社入社 平成16年8月 株式会社ユニオン・グラビア代表取締役社長 平成21年4月 当社執行役員 平成21年7月 当社コーポレートセンター経営計画部部长 平成22年3月 当社取締役(現任) 平成22年3月 当社合成樹脂事業部製品グループ統括兼子会社担当 平成23年1月 合成樹脂事業部副事業部長(現任)	(注) 1	2
常勤監査役		行天 武	昭和19年1月26日生	昭和37年3月 当社入社 平成15年4月 当社経理部次長 平成16年3月 当社監査役(現任)	(注) 2	25
監査役		眞鍋 清	昭和22年12月1日生	昭和50年2月 公認会計士登録 昭和51年7月 眞鍋公認会計士事務所開設 平成3年3月 監査法人トーマツ入所、代表社員 平成14年4月 愛媛県包括外部監査人 平成14年10月 眞鍋公認会計士事務所開設所長(現任) 平成14年10月 公認システム監査人登録 平成16年3月 当社監査役(現任)	(注) 2	17
監査役		馬場 俊夫	昭和27年11月15日生	昭和58年4月 弁護士登録 昭和58年4月 馬場法律事務所開設所長(現任) 平成16年3月 当社監査役(現任)	(注) 2	7
監査役		高田 文生	昭和33年3月21日生	昭和56年4月 住友化学工業株式会社(現住友化学株式会社)入社 平成20年9月 同社技術・経営企画室部長(現任) 平成21年3月 当社監査役(現任)	(注) 3	
計						325

- (注) 1. 平成23年3月24日開催の定時株主総会終結の時から1年間、
2. 平成20年3月27日開催の定時株主総会終結の時から4年間、
3. 平成21年3月26日開催の定時株主総会終結の時から3年間、
4. 眞鍋清、馬場俊夫、高田文生の3氏は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。
また、眞鍋清氏及び馬場俊夫氏は、東京証券取引所に独立役員として届出を行っております。
5. 当社では、業務執行の迅速化と人材登用の機会拡大を図るために、執行役員制度を導入しております。
執行役員は下記の7名であります。

役名	氏名	職名
執行役員	津村 弘幸	コーポレートセンター経営計画部長
執行役員	片山 征資	R&Dセンター担当兼R&Dセンター企画部長
執行役員	上原 英幹	合成樹脂事業部商品化グループ長兼シュリンクグループ長
執行役員	福田 英司	株式会社関西オークラ代表取締役社長
執行役員	植田 智生	新規材料事業部長
執行役員	安部 昭男	合成樹脂事業部東京支店長
執行役員	丸山 千秋	建材事業部読間工場長

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社には「悪をなさない」、「利益を生み出す」、「永続する」という3つの使命があると考えています。そして、「人ひとりを大切に」、「地域社会への貢献」、「お客様を第一に」という当社の経営理念の実現により、各ステークホルダーに貢献していきたいと考えております。また、当社の創業以来の事業は、「真心を包み、幸せを守り、技術を進化させる」という価値を提供してきました。当社にとってのコーポレート・ガバナンスは、この当社の事業価値を最大限に発揮するための統治機構であると同時に、「悪をなさない」ための牽制機構でもと考えています。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社は取締役会設置会社及び監査役設置会社形態を選択しています。

取締役会は、有価証券報告書提出日現在取締役8名で構成されており、定例取締役会を原則として月2回開催し、当社及びグループ会社に関わる情報の共有化と迅速な意思決定に努めております。

監査役会は、有価証券報告書提出日現在社内常勤監査役1名と社外監査役3名で構成されております。

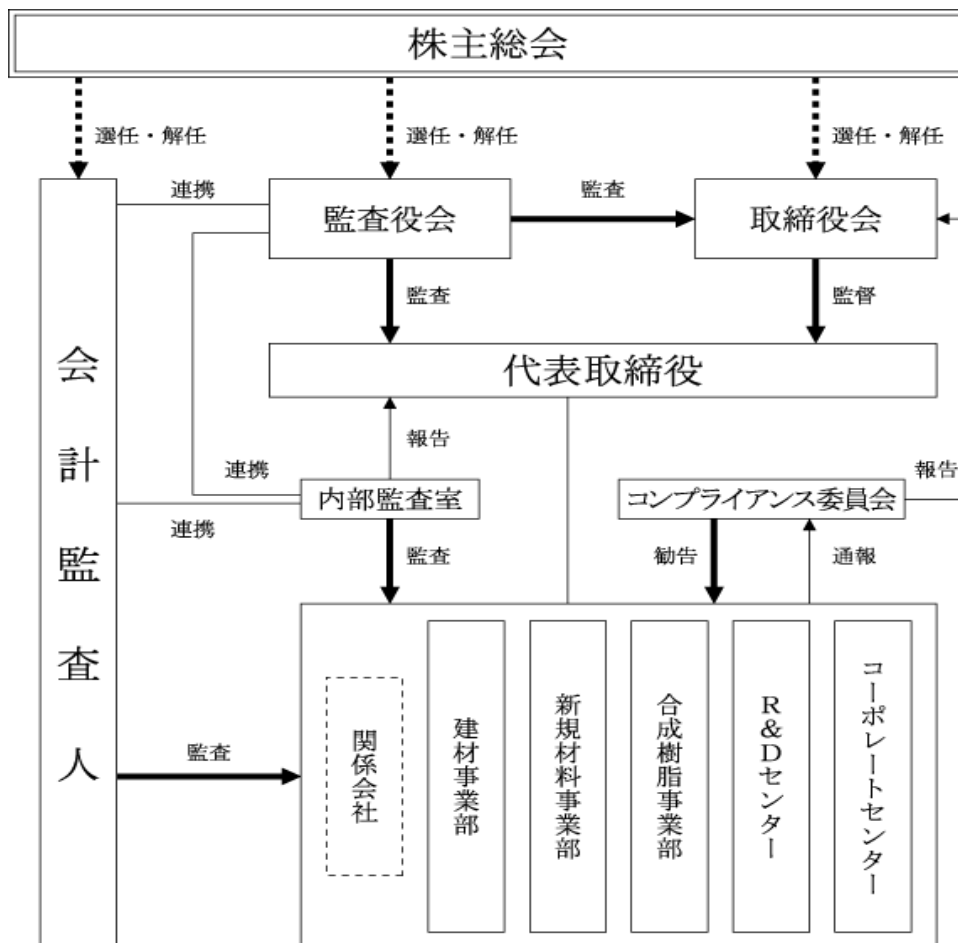
なお、当社は、会社法第427条第1項及び当社定款に基づき、社外監査役と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令が規定する最低責任限度額であります。

ロ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、社外監査役3名を含む4名の監査役による監査体制を構築しております。社外監査役には、公認会計士や弁護士等を選任し、高い専門性を生かした見地から、当社取締役の業務執行を監査しております。また、取締役会においては、監査役が出席の上活発な議論を常時行い、積極的なリスク管理に努めております。

以上の理由により、当社の監査役会は経営の監視機能を十分に果たしているものと認識しております。

ハ コーポレート・ガバナンスの概略図



二 内部統制システムの整備の状況

当社の内部監査は、内部監査室が実施しております。内部監査室は、監査役会及び会計監査人と連携して、当社グループの役員・従業員の業務遂行において、内部統制が有効に機能しているか、業務が適切かつ妥当に行われているかどうかという観点から監査を実施しております。

また、当社はコンプライアンス委員会を設置しております。同委員会は、社長を委員長とし、取締役を中心として構成されており、監査役もオブザーバーとして原則毎回参加しております。同委員会は、法令の違反や社会倫理に抵触することのないよう業務の執行を監視するとともに重要事項の決定や改善勧告等を行っております。また、各部署より選出された従業員でコンプライアンス実行委員会を構成し、浸透活動や各種通達等を実施しております。

ホ リスク管理体制の整備の状況

コンプライアンス委員会と同実行委員会により、重要事項の決定や違反事項の改善勧告等を行なうとともに、コンプライアンスに関する各種プログラムの現場への浸透作業を行っております。また、コーポレートセンターに設置された総務部、経理部、経営計画部、環境安全・品質保証部の各々がそれぞれ、法的リスク、人事労務的リスク、資金的リスク、経営計画と業績の乖離リスク、品質に関するリスク、環境保全に関するリスク等の様々なリスクに対応するために活動しており、予防活動及びクライシス発現時の緊急対応準備に努めております。

内部監査及び監査役監査

内部監査室（人員3名）は当社及び子会社に対し、内部統制の充実を図ることを目的として、法令及び社内規程の遵守状況に関して内部監査を実施しております。内部監査の結果は、代表取締役に報告しております。

監査役は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、常時取締役会に出席しております。主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書の閲覧などによる業務監査を通じて、法令遵守状況を確認し、その結果を定期的に監査役会に報告しております。また、監査役会は、会計監査人との定期的な会合を行い、会計監査内容の報告を受けるとともに意見交換を行っております。

社外取締役及び社外監査役

社外監査役を中心として経営監視機能が十分に機能する体制が構築されていることから、当社では社外取締役を選任していません。

社外監査役のうち高田文生は当社の特定関係事業者（主要な取引先）である住友化学株式会社の技術・経営企画室部長であり、同社は当社の大株主であるとともに、当社との間において経常的な営業取引関係があります。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	190	190				10
監査役 (社外監査役を除く。)	13	13				1
社外役員	16	16				3

□ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

八 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

平成19年3月29日開催の第87期定時株主総会において、取締役の報酬額は年額220百万円以内(使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない)、監査役の報酬額は年額40百万円以内と決議いただいております。

各取締役の月額報酬は、取締役会の授権を受けた代表取締役が当社の定める基準に基づき決定し、各監査役の報酬額は監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 46銘柄
貸借対照表計上額の合計額 3,614百万円

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式のうち、当事業年度における貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超える銘柄

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
住友林業(株)	1,165,000	830	取引関係の維持・強化のため
(株)伊予銀行	600,592	390	取引関係の維持・強化のため
(株)百十四銀行	1,055,750	315	取引関係の維持・強化のため
JSR(株)	183,800	278	取引関係の維持・強化のため
(株)中国銀行	255,264	250	取引関係の維持・強化のため
住友化学(株)	530,189	212	取引関係の維持・強化のため
大日精化工業(株)	401,000	178	取引関係の維持・強化のため
(株)ヤクルト本社	64,767	151	取引関係の維持・強化のため
すてきナイスグループ(株)	587,455	105	取引関係の維持・強化のため
住友商事(株)	90,358	103	取引関係の維持・強化のため

八 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式		40	0		
非上場株式以外の株式		1,270	32		264

会計監査の状況

当社の会計監査人は、有限責任監査法人トーマツであります。業務を執行した公認会計士は、北田隆及び高田武であります。また、監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士4名、会計士補等11名、その他2名であります。

取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及びその選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	40	1	40	
連結子会社				
計	40	1	40	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、財務報告に係る内部統制に関する助言・指導業務であります。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、当社の規模、業務の特性、監査日数等を総合的に勘案し、監査役会の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成21年1月1日から平成21年12月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成21年1月1日から平成21年12月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年1月1日から平成21年12月31日まで)及び当連結会計年度(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)の連結財務諸表並びに前事業年度(平成21年1月1日から平成21年12月31日まで)及び当事業年度(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、経理部門にて会計基準等の動向を解説した機関誌の定期購読、監査法人等が主催する会計基準等のセミナーへの参加を行っております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年12月31日)	当連結会計年度 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,572	7,592
受取手形及び売掛金	6 18,636	6 24,192
商品及び製品	4,334	4,066
仕掛品	678	674
原材料及び貯蔵品	2,751	2,979
販売用不動産	72	141
繰延税金資産	21	358
その他	2,247	2,608
貸倒引当金	186	221
流動資産合計	39,128	42,391
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2 19,251	2 18,526
機械装置及び運搬具（純額）	2 13,763	2 11,502
土地	2 7,635	2 6,935
建設仮勘定	1,081	1,731
その他（純額）	536	553
有形固定資産合計	1 42,268	1 39,249
無形固定資産	253	217
投資その他の資産		
投資有価証券	3 5,728	3 5,518
繰延税金資産	50	87
その他	3 1,030	3 1,007
貸倒引当金	132	123
投資その他の資産合計	6,677	6,489
固定資産合計	49,198	45,956
資産合計	88,327	88,347

	前連結会計年度 (平成21年12月31日)	当連結会計年度 (平成22年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6 18,622	6 18,799
短期借入金	2, 7 11,080	2, 7 11,070
1年内返済予定の長期借入金	2 1,821	2, 7 1,960
リース債務	591	621
未払法人税等	725	164
設備関係支払手形	979	371
その他	2 5,512	2 6,422
流動負債合計	39,331	39,410
固定負債		
長期借入金	2, 7 10,865	2, 7 10,478
リース債務	3,851	3,246
繰延税金負債	639	49
退職給付引当金	2,208	2,385
役員退職慰労引当金	189	227
建物等除却損失引当金	-	129
その他	2 935	2 1,033
固定負債合計	18,689	17,551
負債合計	58,021	56,961
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,619	8,619
資本剰余金	9,068	9,068
利益剰余金	12,498	13,703
自己株式	401	411
株主資本合計	29,784	30,980
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	521	405
評価・換算差額等合計	521	405
純資産合計	30,305	31,386
負債純資産合計	88,327	88,347

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
売上高	73,228	80,030
売上原価	¹ 63,647	¹ 69,101
売上総利益	9,581	10,929
販売費及び一般管理費		
販売手数料	25	34
運送費及び保管費	2,385	2,684
給料	2,013	1,936
賞与	298	477
役員報酬	217	284
退職給付費用	148	143
役員退職慰労引当金繰入額	30	50
減価償却費	133	121
研究開発費	² 1,113	² 1,137
貸倒引当金繰入額	77	40
その他	2,062	2,004
販売費及び一般管理費合計	8,507	8,913
営業利益	1,073	2,015
営業外収益		
受取利息	15	7
受取配当金	107	111
受取ロイヤリティー	58	34
為替差益	6	-
雑収入	306	177
営業外収益合計	494	330
営業外費用		
支払利息	627	529
為替差損	-	37
債権売却損	84	44
雑損失	115	66
営業外費用合計	827	678
経常利益	740	1,667

	前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4	2
関係会社株式売却益	-	28
固定資産売却益	0	66
役員退職慰労引当金戻入額	17	-
特別利益合計	22	97
特別損失		
たな卸資産評価損	286	-
固定資産除売却損	246	216
建物等除却損失引当金繰入額	-	129
減損損失	745	698
投資有価証券評価損	34	20
ゴルフ会員権売却損	1	-
特別退職金	27	-
災害による損失	8	-
貯蔵品処分損	61	-
環境対策費	-	89
特別損失合計	1,412	1,154
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	649	610
法人税、住民税及び事業税	967	289
法人税等調整額	129	884
法人税等合計	1,096	595
当期純利益又は当期純損失()	1,745	1,205

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	8,619	8,619
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,619	8,619
資本剰余金		
前期末残高	9,068	9,068
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	9,068	9,068
利益剰余金		
前期末残高	14,243	12,498
当期変動額		
剰余金の配当	-	-
当期純利益又は当期純損失()	1,745	1,205
当期変動額合計	1,745	1,205
当期末残高	12,498	13,703
自己株式		
前期末残高	393	401
当期変動額		
自己株式の取得	7	9
当期変動額合計	7	9
当期末残高	401	411
株主資本合計		
前期末残高	31,538	29,784
当期変動額		
剰余金の配当	-	-
当期純利益又は当期純損失()	1,745	1,205
自己株式の取得	7	9
当期変動額合計	1,753	1,196
当期末残高	29,784	30,980

	前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	795	521
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	273	115
当期変動額合計	273	115
当期末残高	521	405
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	0	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	-	-
評価・換算差額等合計		
前期末残高	794	521
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	273	115
当期変動額合計	273	115
当期末残高	521	405
純資産合計		
前期末残高	32,333	30,305
当期変動額		
剰余金の配当	-	-
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,745	1,205
自己株式の取得	7	9
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	273	115
当期変動額合計	2,027	1,080
当期末残高	30,305	31,386

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	649	610
減価償却費	5,702	5,444
減損損失	745	698
貸倒引当金の増減額(は減少)	69	26
退職給付引当金の増減額(は減少)	16	176
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	12	38
建物等除却損失引当金の増減額(は減少)	-	129
受取利息及び受取配当金	123	119
支払利息	627	529
為替差損益(は益)	2	38
投資有価証券評価損益(は益)	34	20
関係会社株式売却損益(は益)	-	28
固定資産除売却損益(は益)	243	113
売上債権の増減額(は増加)	699	5,545
たな卸資産の増減額(は増加)	2,895	24
その他の流動資産の増減額(は増加)	235	350
仕入債務の増減額(は減少)	3,018	177
未払消費税等の増減額(は減少)	433	372
その他の流動負債の増減額(は減少)	850	488
その他	482	88
小計	7,553	2,139
利息及び配当金の受取額	123	119
利息の支払額	620	536
法人税等の支払額	731	865
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,324	856
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,691	2,991
有形固定資産の売却による収入	61	68
投資有価証券の取得による支出	8	8
投資有価証券の売却による収入	0	-
貸付けによる支出	46	-
貸付金の回収による収入	25	62
関係会社株式の売却による収入	-	30
その他	47	131
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,706	2,969

	前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	2,655	10
長期借入れによる収入	1,000	1,690
長期借入金の返済による支出	1,036	1,937
リース債務の増加による収入	1,780	-
リース債務の返済による支出	571	593
自己株式の取得による支出	7	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,490	860
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	16
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	870	2,989
現金及び現金同等物の期首残高	11,413	10,543
現金及び現金同等物の期末残高	10,543	7,553

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
<p>1．連結の範囲に関する事項</p> <p>(イ)連結子会社 13社 連結子会社は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に掲載しているため、省略いたしました。 平成21年 1月22日に㈱オークラブレカットシステムを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>(ロ)非連結子会社 3社 非連結子会社(外商合資無錫大倉包装材料有限公司他)については、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。 外商合資無錫大倉包装材料有限公司は、平成21年11月20日付で外商合資無錫大倉環宇包装材料有限公司より名称を変更しております。</p> <p>2．持分法の適用に関する事項</p> <p>(イ)持分法適用会社 該当事項はありません。</p> <p>(ロ)持分法を適用していない非連結子会社3社及び関連会社3社(大友化成㈱他)は、それぞれ連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。</p> <p>3．連結子会社の事業年度等に関する事項 すべての連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しております。</p> <p>4．会計処理基準に関する事項</p> <p>(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定) 時価のないもの 総平均法に基づく原価法</p>	<p>1．連結の範囲に関する事項</p> <p>(イ)連結子会社 13社 連結子会社は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に掲載しているため、省略いたしました。</p> <p>(ロ)非連結子会社 2社 非連結子会社(外商合資無錫大倉包装材料有限公司他)については、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。 当連結会計年度において、非連結子会社であった大宝㈱は、当社が保有する株式の一部を売却した結果、関連会社となりました。</p> <p>2．持分法の適用に関する事項</p> <p>(イ)持分法適用会社 該当事項はありません。</p> <p>(ロ)持分法を適用していない非連結子会社2社及び関連会社4社(大友化成㈱他)は、それぞれ連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。</p> <p>3．連結子会社の事業年度等に関する事項 同左</p> <p>4．会計処理基準に関する事項</p> <p>(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)</p>
<p>デリバティブ 時価法 たな卸資産 商品、製品、原材料、仕掛品 主として総平均法に基づく原価法 販売用不動産 個別法に基づく原価法 貯蔵品 最終仕入原価法 なお、貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定しております。</p> <p>(会計処理の変更) 当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。 この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当連結会計年度の営業利益及び経常利益が81百万円増加しており、税金等調整前当期純損失が205百万円増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。</p> <p>(口)重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産(リース資産除く) 建物 定額法 建物以外の有形固定資産 ... 定率法 なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 3～50年 機械装置及び運搬具 4～14年 (追加情報) 平成20年度の法人税法改正を契機に有形固定資産の耐用年数を見直し、当連結会計年度より、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更しております。 この変更に伴い、当連結会計年度の営業利益及び経常利益は212百万円減少しており、税金等調整前当期純損失は212百万円増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>無形固定資産 定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	<p>デリバティブ 同左 たな卸資産 同左</p> <p>(口)重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産(リース資産除く) 同左</p> <p>無形固定資産 同左</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)</p>
<p>リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引続き採用しております。 (会計処理の変更) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 なお、この変更が損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(八)重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 役員賞与引当金 役員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う額を計上しております。 なお、当連結会計年度に係る役員賞与は支給しないため、当連結会計年度においては役員賞与引当金は計上しておりません。 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。</p>	<p>リース資産 同左</p> <p>(八)重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 同左</p> <p>役員賞与引当金 同左</p> <p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。 (会計処理の変更) 当連結会計年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 なお、この変更が損益に与える影響はありません。</p>

前連結会計年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づ く期末要支給額を計上しております。	役員退職慰労引当金 同左
(二)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算 基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場 により円貨に換算し、換算差額は損益として処理 しております。	建物等除却損失引当金 将来発生することが見込まれる建物等の撤去に係 る損失に備えるため、合理的に見積もった撤去 費用相当額を計上しております。
(二)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算 基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場 により円貨に換算し、換算差額は損益として処理 しております。	(二)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算 基準 同左
(ホ)重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。な お、振当処理の要件を満たしている為替予約に ついては振当処理によっております。	(ホ)重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左
ヘッジ手段とヘッジ対象 当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手 段とヘッジ対象は以下のとおりであります。 ・ヘッジ手段.....為替予約 ・ヘッジ対象.....原材料輸入による外貨建買入 債務及び外貨建予定取引	ヘッジ手段とヘッジ対象 同左
ヘッジ方針 デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度 額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に 係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッ ジしております。	ヘッジ方針 同左
ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ手段及びヘッジ対象に関する重要な条件が 同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継 続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を 完全に相殺するものと想定することができるた めヘッジの有効性の評価は省略しております。	ヘッジの有効性評価の方法 同左
(ヘ)その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理方法 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用してありま す。	(ヘ)その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理方法 同左 連結納税制度の適用 当連結会計年度より、連結納税制度を適用してあり ます。

前連結会計年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 同左
6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 のれん及び負ののれんの償却については、5年間の定額法により償却を行うこととしております。	6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 同左
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)
(連結貸借対照表) 財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」「販売用不動産」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」「販売用不動産」は、それぞれ5,606百万円、632百万円、4,266百万円、227百万円であります。	

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年12月31日)	当連結会計年度 (平成22年12月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 69,631 百万円	1 有形固定資産の減価償却累計額 73,130 百万円
2 有形固定資産のうち担保に供しているものは次のとおりであります。	2 有形固定資産のうち担保に供しているものは次のとおりであります。
財団抵当に供しているもの	財団抵当に供しているもの
建物及び構築物 12,487 百万円	建物及び構築物 12,127 百万円
機械装置及び運搬具 8,592 "	機械装置及び運搬具 7,395 "
土地 3,160 "	土地 3,160 "
計 24,241 "	計 22,683 "
上記物件に対応する債務	上記物件に対応する債務
短期借入金 10,830 百万円	短期借入金 10,830 百万円
1年内返済予定の長期借入金 1,565 "	1年内返済予定の長期借入金 1,429 "
長期借入金 9,535 "	長期借入金 8,889 "
計 21,930 "	計 21,148 "
不動産抵当に供しているもの	不動産抵当に供しているもの
建物及び構築物 2,609 百万円	建物及び構築物 2,478 百万円
土地 1,889 "	土地 1,889 "
計 4,498 "	計 4,367 "
上記物件に対応する債務	上記物件に対応する債務
1年内返済予定の長期借入金 136 百万円	1年内返済予定の長期借入金 256 百万円
流動負債のその他 17 "	流動負債のその他 17 "
長期借入金 956 "	長期借入金 699 "
固定負債のその他 278 "	固定負債のその他 260 "
計 1,387 "	計 1,234 "
3 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。	3 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。
投資有価証券 (株式) 510 百万円	投資有価証券 (株式) 508 百万円
投資その他の資産のその他 (出資金) 462 "	投資その他の資産のその他 (出資金) 552 "
4 保証債務	4 保証債務
銀行借入に対する保証債務	銀行借入に対する保証債務
中讃ケーブルビジョン(株) 389 百万円	中讃ケーブルビジョン(株) 335 百万円
外商合資無錫大倉包装材料有限公司 95 "	外商合資無錫大倉包装材料有限公司 86 "
計 484 "	計 421 "

前連結会計年度 (平成21年12月31日)	当連結会計年度 (平成22年12月31日)																																				
<p>5 受取手形割引高は、1,581百万円であります。</p> <p>6 連結会計年度末日満期手形の処理 当連結会計年度末日は、金融機関の休日に当たりますが、下記の同日満期手形は、満期日に決済があったものとして処理しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">781 百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手形</td> <td style="text-align: right;">10 "</td> </tr> </table> <p>7 当社は、効率的な資金調達のために取引金融機関7社とコミットメントライン契約及び取引金融機関10社とタームローン契約(分割実行可能期間付金銭消費貸借契約)を締結しております。それぞれの契約に基づく、当連結会計年度末における借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">コミットメントライン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">9,700 百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,880 "</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td style="text-align: right;">5,820 "</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>タームローン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">9,300 百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">9,300 "</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td style="text-align: right;">"</td> </tr> </table> <p>また、上記それぞれの契約には下記の財務制限条項が付されております。なお、当該条項に抵触した場合には、多数貸付人の請求により、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。</p> <p>(財務制限条項)</p> <p>各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ264億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ236億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益が、平成19年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成20年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p> <p>各年度の決算期における単体の損益計算書に示される営業損益が、平成20年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成21年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p>	受取手形	781 百万円	支払手形	10 "	コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円	借入実行残高	3,880 "	差引	5,820 "			タームローン契約の総額	9,300 百万円	借入実行残高	9,300 "	差引	"	<p>5 受取手形割引高は、3,328百万円であります。</p> <p>6 連結会計年度末日満期手形の処理 当連結会計年度末日は、金融機関の休日に当たりますが、下記の同日満期手形は、満期日に決済があったものとして処理しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">508 百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手形</td> <td style="text-align: right;">50 "</td> </tr> </table> <p>7 当社は、効率的な資金調達のために取引金融機関7社とコミットメントライン契約及び取引金融機関10社とタームローン契約(分割実行可能期間付金銭消費貸借契約)を締結しております。それぞれの契約に基づく、当連結会計年度末における借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">コミットメントライン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">9,700 百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,880 "</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td style="text-align: right;">5,820 "</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>タームローン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">8,835 百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">8,835 "</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td style="text-align: right;">"</td> </tr> </table> <p>また、上記それぞれの契約には下記の財務制限条項が付されております。なお、当該条項に抵触した場合には、多数貸付人の請求により、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。</p> <p>(財務制限条項)</p> <p>各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ264億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ236億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益が、平成19年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成20年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p> <p>各年度の決算期における単体の損益計算書に示される営業損益が、平成20年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成21年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p>	受取手形	508 百万円	支払手形	50 "	コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円	借入実行残高	3,880 "	差引	5,820 "			タームローン契約の総額	8,835 百万円	借入実行残高	8,835 "	差引	"
受取手形	781 百万円																																				
支払手形	10 "																																				
コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円																																				
借入実行残高	3,880 "																																				
差引	5,820 "																																				
タームローン契約の総額	9,300 百万円																																				
借入実行残高	9,300 "																																				
差引	"																																				
受取手形	508 百万円																																				
支払手形	50 "																																				
コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円																																				
借入実行残高	3,880 "																																				
差引	5,820 "																																				
タームローン契約の総額	8,835 百万円																																				
借入実行残高	8,835 "																																				
差引	"																																				

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)				当連結会計年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)			
1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。				1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。			
205 百万円				52 百万円			
2 一般管理費に含まれる研究開発費は1,113百万円です。なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。				2 一般管理費に含まれる研究開発費は1,137百万円です。なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。			
3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。				3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。			
		機械装置及び運搬具	0 百万円			建物及び構築物	13 百万円
		計	0 "			機械装置及び運搬具	48 "
						土地	3 "
						有形固定資産のその他	1 "
						計	66 "
4 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。				4 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。			
		建物及び構築物	36 百万円			建物及び構築物	89 百万円
		機械装置及び運搬具	202 "			機械装置及び運搬具	121 "
		有形固定資産のその他	5 "			有形固定資産のその他	5 "
		無形固定資産	1 "			計	216 "
		計	246 "				
5 減損損失 当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。				5 減損損失 当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。			
場所	用途	種類	金額 (百万円)	場所	用途	種類	金額 (百万円)
香川県仲多度郡 まんのう町	光学フィルム 製造設備	建設仮勘定	745	岡山市北区	ホテル事業用資産	土地	698
当社グループは、事業用資産について管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っております。このうち、建設中の製造設備について、完成時に予定していた使用目的を大幅に変更した結果、投下資本回収力が著しく低下することとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（745百万円）として特別損失に計上しております。なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを6.22%で割引いて算定しております。				当社グループは、事業用資産について管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っております。このうち、平成4年に取得した(株)岡山ビジネスホテルの土地について、市場価格の著しい下落が認められたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（698百万円）として特別損失に計上しております。なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.60%で割引いて算定しております。			

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	62,074,351			62,074,351
合計	62,074,351			62,074,351
自己株式				
普通株式	776,795	34,755		811,550
合計	776,795	34,755		811,550

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	62,074,351			62,074,351
合計	62,074,351			62,074,351
自己株式				
普通株式	811,550	39,745		851,295
合計	811,550	39,745		851,295

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 3月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	183	3.00	平成22年12月31日	平成23年3月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)												
<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">10,572 百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヵ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">28 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">10,543 "</td> </tr> </table> <p>(追加情報) 連結会計年度末日売掛債権流動化等実施額 6,173 百万円</p> <p>2 重要な非資金取引の内容 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ167百万円であります。</p>	現金及び預金勘定	10,572 百万円	預入期間が3ヵ月を超える定期預金	28 "	現金及び現金同等物	10,543 "	<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">7,592 百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヵ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">38 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,553 "</td> </tr> </table> <p>2 重要な非資金取引の内容 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ17百万円であります。</p>	現金及び預金勘定	7,592 百万円	預入期間が3ヵ月を超える定期預金	38 "	現金及び現金同等物	7,553 "
現金及び預金勘定	10,572 百万円												
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	28 "												
現金及び現金同等物	10,543 "												
現金及び預金勘定	7,592 百万円												
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	38 "												
現金及び現金同等物	7,553 "												

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)																																																																																																					
<p>1. リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">取得価額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">減価償却 累計額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">減損損失 累計額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">期末残高 相当額</th> </tr> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">470</td> <td style="text-align: right;">322</td> <td style="text-align: right;">88</td> <td style="text-align: right;">59</td> </tr> <tr> <td>その他の資産</td> <td style="text-align: right;">249</td> <td style="text-align: right;">144</td> <td style="text-align: right;">12</td> <td style="text-align: right;">92</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">720</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">466</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">100</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">152</td> </tr> </tbody> </table> <p>未経過リース料期末残高相当額等</p> <p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">1年以内</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">105</td> <td style="width: 15%;">百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td></td> <td style="text-align: right;">81</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">186</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> </tbody> </table> <p>リース資産減損勘定期末残高</p> <p style="text-align: right;">17 百万円</p> <p>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">支払リース料</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">193</td> <td style="width: 15%;">百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">45</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">136</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">4</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> </tbody> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>利息相当額の算定方法</p> <p>リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p>		取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	減損損失 累計額 相当額	期末残高 相当額		(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	機械装置及び運搬具	470	322	88	59	その他の資産	249	144	12	92	合計	720	466	100	152	1年以内		105	百万円	1年超		81	"	合計		186	"	支払リース料		193	百万円	リース資産減損勘定の取崩額		45	"	減価償却費相当額		136	"	支払利息相当額		4	"	<p>1. リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">取得価額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">減価償却 累計額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">期末残高 相当額</th> </tr> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">127</td> <td style="text-align: right;">108</td> <td style="text-align: right;">18</td> </tr> <tr> <td>その他の資産</td> <td style="text-align: right;">142</td> <td style="text-align: right;">82</td> <td style="text-align: right;">60</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">270</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">190</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">79</td> </tr> </tbody> </table> <p>未経過リース料期末残高相当額等</p> <p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">1年以内</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">45</td> <td style="width: 15%;">百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td></td> <td style="text-align: right;">35</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">81</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> </tbody> </table> <p>リース資産減損勘定期末残高</p> <p style="text-align: right;">0 百万円</p> <p>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%;">支払リース料</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: right;">111</td> <td style="width: 15%;">百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">17</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">88</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">1</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> </tbody> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>利息相当額の算定方法</p> <p style="text-align: center;">同左</p>		取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	期末残高 相当額		(百万円)	(百万円)	(百万円)	機械装置及び運搬具	127	108	18	その他の資産	142	82	60	合計	270	190	79	1年以内		45	百万円	1年超		35	"	合計		81	"	支払リース料		111	百万円	リース資産減損勘定の取崩額		17	"	減価償却費相当額		88	"	支払利息相当額		1	"
	取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	減損損失 累計額 相当額	期末残高 相当額																																																																																																		
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)																																																																																																		
機械装置及び運搬具	470	322	88	59																																																																																																		
その他の資産	249	144	12	92																																																																																																		
合計	720	466	100	152																																																																																																		
1年以内		105	百万円																																																																																																			
1年超		81	"																																																																																																			
合計		186	"																																																																																																			
支払リース料		193	百万円																																																																																																			
リース資産減損勘定の取崩額		45	"																																																																																																			
減価償却費相当額		136	"																																																																																																			
支払利息相当額		4	"																																																																																																			
	取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	期末残高 相当額																																																																																																			
	(百万円)	(百万円)	(百万円)																																																																																																			
機械装置及び運搬具	127	108	18																																																																																																			
その他の資産	142	82	60																																																																																																			
合計	270	190	79																																																																																																			
1年以内		45	百万円																																																																																																			
1年超		35	"																																																																																																			
合計		81	"																																																																																																			
支払リース料		111	百万円																																																																																																			
リース資産減損勘定の取崩額		17	"																																																																																																			
減価償却費相当額		88	"																																																																																																			
支払利息相当額		1	"																																																																																																			

(金融商品関係)

当連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金(主として短期)及び設備投資計画に照らして必要な資金を調達しております。資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達は銀行等金融機関からの借入によっております。デリバティブは、後述のとおり特定のリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。さらに、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクにも晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業等の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金(償還日は最長で決算日後5年)は主に設備投資に係る資金調達であります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については、各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握によりリスクの軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、格付の高い金融機関とのみ取引を行っているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

外貨建ての営業債権債務については、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額等を定めたデリバティブ取引管理規程に基づき、経理部が取引を行っております。なお、連結子会社についてはデリバティブ取引を利用しておりません。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。((注) 2. を参照ください。)
(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	7,592	7,592	-
(2) 受取手形及び売掛金	24,192	24,192	-
(3) 投資有価証券	4,916	4,916	-
資産計	36,701	36,701	-
(1) 支払手形及び買掛金	18,799	18,799	-
(2) 短期借入金	11,070	11,070	-
(3) 未払法人税等	164	164	-
(4) 長期借入金	12,438	12,470	31
(5) リース債務	3,868	3,946	78
負債計	46,340	46,451	110

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価について、上場株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金、(5) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	93
子会社株式及び関連会社株式	508
合計	601

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 満期のある金銭債権及び有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	7,592	-	-	-
受取手形及び売掛金	24,192	-	-	-
投資有価証券	-	-	30	-
合計	31,784	-	30	-

4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	1,960	2,180	1,724	1,350	5,222	-
リース債務	621	645	662	681	700	556
合計	2,581	2,825	2,387	2,032	5,922	556

なお、「(4)長期借入金」、「(5)リース債務」には、それぞれ1年内返済予定の長期借入金、1年内返済予定のリース債務を含めております。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度

1. その他有価証券で時価のあるもの(平成21年12月31日)

	種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,417	3,579	1,162
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	2,417	3,579	1,162
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,726	1,472	254
	(2) 債券			
	(3) その他	101	69	32
	小計	1,828	1,541	286
合計		4,245	5,121	875

(注) 当連結会計年度において、有価証券について34百万円(その他有価証券で時価のある株式)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年1月1日至平成21年12月31日)

売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
0		

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額(平成21年12月31日)

	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
非上場株式	93
投資事業有限責任組合への出資	2

4. その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額(平成21年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
その他			31	
合計			31	

当連結会計年度

1. その他有価証券(平成22年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	3,240	2,248	992
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計	3,240	2,248	992
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,606	1,903	297
	(2) 債券			
	(3) その他	68	81	12
	小計	1,675	1,985	310
合計		4,916	4,233	682

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額93百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のあるものについて20百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)

1. 取引の状況に関する事項

(1) 取引の内容

当社グループの利用しているデリバティブ取引は、通貨関連で為替予約取引であります。

(2) 取引に対する取組方針

当社グループのデリバティブ取引は、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

(3) 取引の利用目的

当社グループのデリバティブ取引は、通貨関連では外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で利用しております。

なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。また、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性の評価方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項4 (ホ) 重要なヘッジ会計の方法」に記載のとおりであります。

(4) 取引に係るリスクの内容

為替予約取引は為替相場の変動によるリスクを有しております。

なお、取引相手先は高格付を有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

(5) 取引に係るリスク管理体制

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。

2. 取引の時価等に関する事項

当社グループのデリバティブ取引にはヘッジ会計を適用しているため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けており、その他の連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年12月31日) (百万円)	当連結会計年度 (平成22年12月31日) (百万円)
イ 退職給付債務	4,436	4,471
ロ 年金資産	1,581	1,539
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	2,854	2,931
ニ 未認識数理計算上の差異	646	546
ホ 退職給付引当金(ハ+ニ)	2,208	2,385

前連結会計年度
(平成21年12月31日)

当連結会計年度
(平成22年12月31日)

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日) (百万円)
イ 勤務費用	285(注)1,2	255(注)1
ロ 利息費用	89	86
ハ 期待運用収益	33	31
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	88	93
ホ 過去勤務債務の費用処理額		
ヘ 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	430	404
ト その他	94(注)3	92(注)2
計	524	497

前連結会計年度
(自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)

当連結会計年度
(自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用を含んでおります。
2. 従業員の退職等に際して支払った割増退職金27百万円を含んでおります。
3. 確定拠出年金への支払額であります。

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用を含んでおります。
2. 確定拠出年金への支払額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
ロ 割引率	2.0%	同左
ハ 期待運用収益率	確定給付企業年金 2.0%	同左
ニ 数理計算上の差異の処理年数	13年	同左
ホ 過去勤務債務の費用処理年数		

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成21年12月31日)	当連結会計年度 (平成22年12月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
(1) 流動資産、流動負債 (繰延税金資産)	(1) 流動資産、流動負債 (繰延税金資産)
未払事業税 66 百万円	未払事業税 36 百万円
貯蔵品処分損 24 "	貯蔵品処分損 24 "
たな卸資産評価損 81 "	たな卸資産評価損 37 "
その他 24 "	繰越欠損金 279 "
繰延税金資産 小計 197 "	その他 22 "
評価性引当額 165 "	繰延税金資産 小計 401 "
繰延税金資産 合計 31 "	評価性引当額 41 "
	繰延税金資産 合計 360 "
(繰延税金負債)	(繰延税金負債)
債権債務の相殺消去に伴う貸倒引当金の調整 10 百万円	未収事業税 3 百万円
繰延税金負債合計 10 "	繰延税金負債合計 3 "
繰延税金資産の純額 21 百万円	繰延税金資産の純額 358 百万円
繰延税金負債の純額 0 "	繰延税金負債の純額 0 "
(2) 固定資産、固定負債 (繰延税金資産)	(2) 固定資産、固定負債 (繰延税金資産)
繰越欠損金 2,479 百万円	繰越欠損金 1,714 百万円
役員退職慰労引当金 76 "	役員退職慰労引当金 91 "
貸倒引当金 26 "	貸倒引当金 26 "
退職給付引当金 894 "	退職給付引当金 967 "
投資有価証券 450 "	投資有価証券 245 "
減損損失 1,635 "	減損損失 1,424 "
固定資産除却損 74 "	固定資産除却損 175 "
その他 24 "	その他 108 "
繰延税金資産 小計 5,662 "	繰延税金資産 小計 4,753 "
評価性引当額 5,599 "	評価性引当額 4,437 "
繰延税金資産 合計 62 "	繰延税金資産 合計 315 "

前連結会計年度 (平成21年12月31日)		当連結会計年度 (平成22年12月31日)	
(繰延税金負債)		(繰延税金負債)	
其他有価証券評価差額金	354 百万円	其他有価証券評価差額金	276 百万円
債権債務の相殺消去に伴う 貸倒引当金の調整	4 "	連結上の土地評価差額	1 "
連結上の土地評価差額	293 "	繰延税金負債 合計	278 "
繰延税金負債 合計	651 "		
繰延税金資産の純額	50 百万円	繰延税金資産の純額	87 百万円
繰延税金負債の純額	639 "	繰延税金負債の純額	49 "
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	40.4 %	法定実効税率	40.4 %
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入 されない項目	0.8 "	交際費等永久に損金に算入 されない項目	1.5 "
受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	4.8 "	受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	2.8 "
評価性引当額の増減	204.2 "	評価性引当額の増減	174.5 "
住民税均等割	7.2 "	住民税均等割	7.5 "
連結子会社の特別軽減税率差異	1.6 "	連結子会社と親会社の税率差異	2.4 "
連結子会社と親会社の税率差異	4.4 "	連結納税適用による影響	29.9 "
その他	0.8 "	その他	2.0 "
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	169.0 "	税効果会計適用後の法人税等 の負担率	97.5 "

(賃貸等不動産関係)

当連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

重要性がないため記載を省略しております。

(追加情報)

当連結会計年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)

	合成樹脂 事業 (百万円)	新規材料 事業 (百万円)	建材事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	46,750	14,349	7,684	4,443	73,228		73,228
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	0	48	490	543	(543)	
計	46,755	14,350	7,732	4,933	73,771	(543)	73,228
営業費用	42,351	14,090	10,116	4,692	71,251	903	72,155
営業利益又は 営業損失()	4,404	259	2,384	241	2,520	(1,447)	1,073
資産、減価償却費、減損 損失及び資本的支出							
資産	39,492	14,141	11,130	8,348	73,112	15,214	88,327
減価償却費	1,933	997	2,039	365	5,335	367	5,702
減損損失		745			745		745
資本的支出	1,407	2,027	768	206	4,409	61	4,471

当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

	合成樹脂 事業 (百万円)	新規材料 事業 (百万円)	建材事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	49,688	17,638	8,327	4,376	80,030		80,030
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4			510	514	(514)	
計	49,693	17,638	8,327	4,886	80,545	(514)	80,030
営業費用	45,634	16,938	9,744	4,668	76,984	1,031	78,015
営業利益又は 営業損失()	4,059	700	1,416	218	3,561	(1,545)	2,015
資産、減価償却費、減損 損失及び資本的支出							
資産	41,552	18,010	9,855	7,370	76,788	11,559	88,347
減価償却費	1,886	1,308	1,618	392	5,206	237	5,444
減損損失				698	698		698
資本的支出	2,031	260	387	140	2,819	466	3,285

- (注) 1. 事業区分は、製品の種類、販売市場等の類似性を考慮して区分しております。
2. 各事業の主な製品及び事業内容は次のとおりであります。
- (1) 合成樹脂事業 ポリエチレンフィルム、ポリプロピレンフィルム等
 - (2) 新規材料事業 光学機能性フィルム等
 - (3) 建材事業 加工合板、パーティクルボード、加工ボード、住設機器等
 - (4) その他の事業 ホテル事業、木材加工事業、宅地造成及び建物建築事業、情報処理システム開発事業及び不動産賃貸事業等
3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の主なものは、親会社本社の管理部門に係る費用及び全社的な研究開発費用であります。
- | | |
|---------|----------|
| 前連結会計年度 | 1,447百万円 |
| 当連結会計年度 | 1,545百万円 |
4. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の主なものは、親会社での余資運用資金(現預金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)、親会社本社の管理部門及びR&Dセンターに係る資産等であります。
- | | |
|---------|-----------|
| 前連結会計年度 | 15,214百万円 |
| 当連結会計年度 | 11,559百万円 |
5. 会計方針の変更
- 前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)
- (棚卸資産の評価に関する会計基準)
- 「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4 会計処理基準に関する事項(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法 たな卸資産(会計処理の変更)に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。
- この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当連結会計年度の営業利益が合成樹脂事業で15百万円、新規材料事業で6百万円、その他の事業で17百万円それぞれ増加し、営業損失が建材事業で41百万円減少しております。
- 当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)
- 記載すべき事項はありません。
6. 追加情報
- 前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)
- (有形固定資産の耐用年数の変更)
- 平成20年度の法人税法改正を契機に有形固定資産の耐用年数を見直し、当連結会計年度より、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更しております。
- この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当連結会計年度の営業利益が合成樹脂事業で7百万円、その他の事業で7百万円それぞれ減少し、営業損失が建材事業で197百万円増加しております。
- 当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)
- 記載すべき事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)

在外子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

在外子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連 会社	オー・エル・ エス(有)	東京都 中央区	1,000	液晶表示装 置用偏光板 の製造及び 販売	(所有) 直接 50.0	同社高機能 性フィルム 製品の購入 及び役員の 兼任	同社高機能 性フィルム 製品の購入	4,052	買掛金	1,289
							ロイヤリ ティーの受 取	53		

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

一般的取引と同様に決定しております。

2. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連 会社	オー・エル・ エス(有)	東京都 中央区	1,000	液晶表示装 置用偏光板 の製造及び 販売	(所有) 直接 50.0	同社高機能 性フィルム 製品の購入	同社高機能 性フィルム 製品の購入	5,539	買掛金	2,012
関連 会社	大宝(株)	香川県 丸亀市	10	合成樹脂製 品の製袋加 工	(所有) 直接 20.0	当社製品の 外注加工	同社株式の 売却(注3) 売却代金 売却益	30 28		

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

一般的取引と同様に決定しております。

2. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

3. 売却価格は期末純資産額を基準に算定した価格に基づき交渉の上、決定しております。

なお、この株式の売却により、大宝(株)は当社の子会社から関連会社となりました。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり純資産額	494.69 円	512.66 円
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額()	28.49 円	19.69 円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当期純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成21年12月31日)	当連結会計年度末 (平成22年12月31日)
純資産の部の合計額	30,305 百万円	31,386 百万円
純資産の部の合計額から控除する金額		
普通株主に係る期末の純資産額	30,305 百万円	31,386 百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式数	61,262 千株	61,223 千株

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額		
当期純利益又は当期純損失()	1,745 百万円	1,205 百万円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()	1,745 百万円	1,205 百万円
普通株式の期中平均株式数	61,276 千株	61,243 千株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	11,080	11,070	0.858	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,821	1,960	1.455	
1年以内に返済予定のリース債務	591	621	4.351	
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	10,865	10,478	1.432	平成24年1月25日～ 平成27年9月25日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	3,851	3,246	4.531	平成24年1月23日～ 平成28年9月23日
その他有利子負債 流動負債「その他」(預り金)	135	175	1.000	
その他有利子負債 固定負債「その他」(長期預り金)	577	610	1.026	
合計	28,921	28,162		

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の当連結会計年度末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,180	1,724	1,350	5,222
リース債務	645	662	681	700

(2) 【その他】

当連結会計年度における各四半期連結会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	第3四半期 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	第4四半期 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高 (百万円)	18,403	20,368	19,935	21,324
税金等調整前四半期 純利益金額又は 税金等調整前四半期 純損失金額() (百万円)	211	388	244	233
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額() (百万円)	572	283	366	16
1株当たり四半期 純利益金額又は 1株当たり四半期 純損失金額() (円)	9.35	4.62	5.98	0.27

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年12月31日)	当事業年度 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,773	4,937
受取手形	5 4,249	5 5,919
売掛金	13,866	17,680
商品及び製品	2,925	2,896
仕掛品	431	477
原材料及び貯蔵品	2,125	2,332
前払費用	130	129
繰延税金資産	-	318
未収入金	2,191	2,861
立替金	2 1,171	2 1,391
その他	2	2
貸倒引当金	179	218
流動資産合計	33,687	38,727
固定資産		
有形固定資産		
建物	32,952	33,097
減価償却累計額	15,678	16,353
減損損失累計額	1,939	1,939
建物（純額）	1 15,334	1 14,804
構築物	1,689	1,712
減価償却累計額	1,276	1,321
減損損失累計額	47	47
構築物（純額）	1 365	1 343
機械及び装置	45,700	45,873
減価償却累計額	33,106	35,433
減損損失累計額	794	793
機械及び装置（純額）	1 11,799	1 9,646
車両運搬具	491	524
減価償却累計額	415	436
減損損失累計額	1	1
車両運搬具（純額）	74	86
工具、器具及び備品	2,355	2,384
減価償却累計額	2,092	2,108
減損損失累計額	12	12
工具、器具及び備品（純額）	250	263
土地	1 5,560	1 5,558
リース資産	19	25
減価償却累計額	3	9

	前事業年度 (平成21年12月31日)	当事業年度 (平成22年12月31日)
リース資産(純額)	15	16
建設仮勘定	1,063	1,526
有形固定資産合計	34,465	32,243
無形固定資産		
借地権	12	12
施設利用権	0	0
電話加入権	20	20
ソフトウェア	68	50
無形固定資産合計	101	82
投資その他の資産		
投資有価証券	5,202	4,994
関係会社株式	11,883	11,493
出資金	12	12
関係会社出資金	462	552
株主、役員又は従業員に対する長期貸付金	91	75
関係会社長期貸付金	1,430	1,243
破産更生債権等	120	109
その他	94	78
貸倒引当金	134	115
投資その他の資産合計	19,164	18,444
固定資産合計	53,731	50,770
資産合計	87,419	89,498
負債の部		
流動負債		
支払手形	5 1,576	5 1,642
買掛金	2 18,603	2 18,815
短期借入金	1, 6 10,830	1, 6 10,830
1年内返済予定の長期借入金	1 1,701	1, 6 1,840
リース債務	557	585
未払金	2 2,471	3,478
未払費用	2 1,569	1,782
未払法人税等	45	59
未払消費税等	347	132
前受金	6	9
預り金	1, 2 2,821	1, 2 4,252
設備関係支払手形	979	292
その他	30	27
流動負債合計	41,540	43,748
固定負債		
長期借入金	1, 6 10,491	1, 6 10,224

	前事業年度 (平成21年12月31日)	当事業年度 (平成22年12月31日)
リース債務	3,742	3,163
長期未払金	-	63
長期預り金	1 935	1 953
繰延税金負債	352	59
退職給付引当金	1,749	1,908
役員退職慰労引当金	189	227
建物等除却損失引当金	-	129
長期リース資産減損勘定	0	0
固定負債合計	17,460	16,730
負債合計	59,000	60,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,619	8,619
資本剰余金		
資本準備金	9,068	9,068
資本剰余金合計	9,068	9,068
利益剰余金		
利益準備金	2,154	2,154
その他利益剰余金		
配当準備積立金	2,650	2,650
別途積立金	14,200	14,200
繰越利益剰余金	8,393	7,666
利益剰余金合計	10,611	11,338
自己株式	401	411
株主資本合計	27,898	28,615
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	519	403
評価・換算差額等合計	519	403
純資産合計	28,418	29,019
負債純資産合計	87,419	89,498

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
売上高		
製品売上高	41,714	45,761
商品売上高	11,338	13,495
その他の収入	1 679	1 765
売上高合計	53,732	60,022
売上原価		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	3,318	2,704
当期製品製造原価	7 38,845	7 41,933
合計	42,163	44,637
製品他勘定振替高	2 539	2 361
製品期末たな卸高	2,704	2,629
製品売上原価	38,920	41,647
商品売上原価		
商品期首たな卸高	354	221
当期商品仕入高	7 10,338	7 12,572
合計	10,692	12,793
商品他勘定振替高	2 32	2 34
商品期末たな卸高	221	267
商品売上原価	10,439	12,491
その他の原価	3 440	3 405
売上原価合計	4 49,800	4 54,544
売上総利益	3,931	5,477
販売費及び一般管理費	5, 6, 7 5,076	5, 6, 7 5,238
営業利益又は営業損失()	1,144	239
営業外収益		
受取利息	7	2
貸付金利息	29	25
受取配当金	746	709
受取ロイヤリティー	58	34
為替差益	6	-
雑収入	184	121
営業外収益合計	7 1,031	7 893
営業外費用		
支払利息	627	553
為替差損	-	37
債権売却損	84	44
雑損失	109	59
営業外費用合計	821	695
経常利益又は経常損失()	934	437

	前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4	2
関係会社株式売却益	-	7 28
固定資産売却益	-	8 66
役員退職慰労引当金戻入額	17	-
特別利益合計	21	97
特別損失		
たな卸資産評価損	263	-
固定資産除売却損	8 210	9 186
減損損失	9 745	-
建物等除却損失引当金繰入額	-	129
投資有価証券評価損	34	20
関係会社株式評価損	-	387
ゴルフ会員権売却損	1	-
特別退職金	27	-
貯蔵品処分損	61	-
環境対策費	-	66
特別損失合計	1,343	791
税引前当期純損失()	2,255	256
法人税、住民税及び事業税	28	451
法人税等調整額	-	532
法人税等合計	28	983
当期純利益又は当期純損失()	2,284	726

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)		当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
材料費	1	24,117	62.0	25,618	61.0
労務費		3,617	9.3	4,303	10.2
経費		11,165	28.7	12,105	28.8
当期総製造費用		38,900	100.0	42,027	100.0
期首仕掛品たな卸高		419		431	
合計		39,320		42,458	
期末仕掛品たな卸高		431		477	
他勘定振替高	2	43		47	
当期製品製造原価		38,845		41,933	

(注) 前事業年度

(注) 当事業年度

原価計算の方法

工程別、組別等の総合原価計算法によっております。

原価計算の方法

工程別、組別等の総合原価計算法によっております。

1. 経費のうち主なものは次のとおりであります。

外注加工費 3,543百万円
電力料 1,365百万円
減価償却費 4,024百万円

2. 固定資産への振替高等であります。

1. 経費のうち主なものは次のとおりであります。

外注加工費 4,327百万円
電力料 1,397百万円
減価償却費 3,908百万円

2. 固定資産への振替高等であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	8,619	8,619
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,619	8,619
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	9,068	9,068
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	9,068	9,068
資本剰余金合計		
前期末残高	9,068	9,068
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	9,068	9,068
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	2,154	2,154
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,154	2,154
その他利益剰余金		
配当準備積立金		
前期末残高	2,650	2,650
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,650	2,650
別途積立金		
前期末残高	14,200	14,200
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	14,200	14,200
繰越利益剰余金		
前期末残高	6,108	8,393
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失()	2,284	726
当期変動額合計	2,284	726
当期末残高	8,393	7,666

	前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
利益剰余金合計		
前期末残高	12,896	10,611
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失 ()	2,284	726
当期変動額合計	2,284	726
当期末残高	10,611	11,338
自己株式		
前期末残高	393	401
当期変動額		
自己株式の取得	7	9
当期変動額合計	7	9
当期末残高	401	411
株主資本合計		
前期末残高	30,190	27,898
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失 ()	2,284	726
自己株式の取得	7	9
当期変動額合計	2,292	716
当期末残高	27,898	28,615
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	794	519
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	274	115
当期変動額合計	274	115
当期末残高	519	403
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	0	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	-	-
評価・換算差額等合計		
前期末残高	794	519
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	274	115
当期変動額合計	274	115
当期末残高	519	403

	前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
純資産合計		
前期末残高	30,984	28,418
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失()	2,284	726
自己株式の取得	7	9
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	274	115
当期変動額合計	2,566	601
当期末残高	28,418	29,019

【重要な会計方針】

前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 総平均法に基づく原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)</p> <p>時価のないもの 総平均法に基づく原価法</p> <p>2. デリバティブの評価基準及び評価方法 時価法</p> <p>3. たな卸資産の評価基準及び評価方法 商品、製品、原材料、仕掛品 総平均法に基づく原価法 貯蔵品 最終仕入原価法 なお、貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定しております。 (会計処理の変更) 当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。 この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当事業年度の営業損失及び経常損失が80百万円減少しており、税引前当期純損失が182百万円増加しております。</p> <p>4. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産(リース資産除く) 建物 定額法 建物以外の有形固定資産 定率法 なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3～50年 機械及び装置 4～14年 (追加情報) 平成20年度の法人税法改正を契機に有形固定資産の耐用年数を見直し、当事業年度より、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更しております。 この変更に伴い、当事業年度の営業損失、経常損失及び税引前当期純損失がそれぞれ209百万円増加しております。</p>	<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>2. デリバティブの評価基準及び評価方法 同左</p> <p>3. たな卸資産の評価基準及び評価方法 同左</p> <p>4. 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産(リース資産除く) 同左</p>

<p>前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)</p>
<p>(2) 無形固定資産 定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引続き採用しております。 (会計処理の変更) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 なお、この変更が損益に与える影響はありません。</p> <p>5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>6. 引当金の計上基準 (1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 役員賞与引当金 役員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき、当事業年度に見合う額を計上しております。 なお、当事業年度に係る役員賞与は支給しないため、当事業年度においては役員賞与引当金は計上しておりません。</p>	<p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p> <p>5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 同左</p> <p>6. 引当金の計上基準 (1) 貸倒引当金 同左 (2) 役員賞与引当金 同左</p>

<p>前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)</p>
<p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>7. ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。 ヘッジ手段.....為替予約 ヘッジ対象.....原材料輸入による外貨建買入債務及び外貨建予定取引</p> <p>(3) ヘッジ方針 デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段及びヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができるためヘッジの有効性の評価は省略しております。</p>	<p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により翌事業年度から費用処理しております。 (会計処理の変更) 当事業年度より「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 なお、この変更が損益に与える影響はありません。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(5) 建物等除却損失引当金 将来発生することが見込まれる建物等の撤去に係る損失に備えるため、合理的に見積もった撤去費用相当額を計上しております。</p> <p>7. ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>

前事業年度 (自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)
8 . その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理方法 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。	8 . その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 (1) 消費税等の会計処理方法 同左 (2) 連結納税制度の適用 当事業年度より、連結納税制度を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年12月31日)	当事業年度 (平成22年12月31日)
1 有形固定資産のうち担保に供しているものは次のとおりであります。	1 有形固定資産のうち担保に供しているものは次のとおりであります。
財団抵当に供しているもの	財団抵当に供しているもの
建物 12,175 百万円	建物 11,831 百万円
構築物 312 "	構築物 295 "
機械及び装置 8,592 "	機械及び装置 7,395 "
土地 3,160 "	土地 3,160 "
計 24,241 "	計 22,683 "
上記物件に対応する債務	上記物件に対応する債務
短期借入金 10,830 百万円	短期借入金 10,830 百万円
1年内返済予定の長期借入金 1,565 "	1年内返済予定の長期借入金 1,429 "
長期借入金 9,535 "	長期借入金 8,889 "
計 21,930 "	計 21,148 "
不動産抵当に供しているもの	不動産抵当に供しているもの
建物 1,816 百万円	建物 1,730 百万円
構築物 6 "	構築物 5 "
土地 449 "	土地 449 "
計 2,271 "	計 2,185 "
上記物件に対応する債務	上記物件に対応する債務
1年内返済予定の長期借入金 16 百万円	1年内返済予定の長期借入金 16 百万円
預り金 17 "	預り金 17 "
長期借入金 76 "	長期借入金 59 "
長期預り金 278 "	長期預り金 260 "
計 387 "	計 354 "
2 関係会社に対する債権・債務	2 関係会社に対する債権・債務
立替金 1,158 百万円	立替金 1,389 百万円
買掛金 3,468 "	買掛金 4,273 "
預り金 2,663 "	預り金 4,053 "
3 保証債務	3 保証債務
リース取引に係る保証債務	リース取引に係る保証債務
(株)オークラブレカットシステム 42 百万円	(株)オークラブレカットシステム 33 百万円
銀行借入に対する保証債務	銀行借入に対する保証債務
中讃ケーブルビジョン(株) 389 "	中讃ケーブルビジョン(株) 335 "
外商合資無錫大倉包装材料有限公司 95 "	外商合資無錫大倉包装材料有限公司 86 "
(株)岡山ビジネスホテル 210 "	(株)岡山ビジネスホテル 190 "
オークラホテル(株) 168 "	オークラホテル(株) 148 "
(株)ユニオン・グラビア 315 "	(株)ユニオン・グラビア 255 "
(株)オークラハウス 50 "	(株)オークラハウス 20 "
資材購入に係る保証債務	資材購入に係る保証債務
(株)オークラハウス 0 "	(株)オークラハウス 0 "
計 1,271 "	計 1,070 "

前事業年度 (平成21年12月31日)	当事業年度 (平成22年12月31日)																																				
<p>4 受取手形割引高は、1,581百万円であります。</p> <p>5 期末日満期手形の処理 当期末日は、金融機関の休日に当たりますが、下記の同日満期手形は、満期日に決済があったものとして処理しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">759 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形</td> <td style="text-align: right;">10 "</td> </tr> </table> <p>6 当社は、効率的な資金調達のために取引金融機関7社とコミットメントライン契約及び取引金融機関10社とタームローン契約(分割実行可能期間付金銭消費貸借契約)を締結しております。それぞれの契約に基づく、当事業年度末における借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントライン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">9,700 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,880 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">差引</td> <td style="text-align: right;">5,820 "</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">タームローン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">9,300 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">9,300 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">差引</td> <td style="text-align: right;">"</td> </tr> </table> <p>また、上記それぞれの契約には下記の財務制限条項が付されております。なお、当該条項に抵触した場合には、多数貸付人の請求により、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。</p> <p>(財務制限条項)</p> <p>各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ264億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ236億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益が、平成19年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成20年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p> <p>各年度の決算期における単体の損益計算書に示される営業損益が、平成20年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成21年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p>	受取手形	759 百万円	支払手形	10 "	コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円	借入実行残高	3,880 "	差引	5,820 "			タームローン契約の総額	9,300 百万円	借入実行残高	9,300 "	差引	"	<p>4 受取手形割引高は、3,328 百万円であります。</p> <p>5 期末日満期手形の処理 当期末日は、金融機関の休日に当たりますが、下記の同日満期手形は、満期日に決済があったものとして処理しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">489 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形</td> <td style="text-align: right;">50 "</td> </tr> </table> <p>6 当社は、効率的な資金調達のために取引金融機関7社とコミットメントライン契約及び取引金融機関10社とタームローン契約(分割実行可能期間付金銭消費貸借契約)を締結しております。それぞれの契約に基づく、当事業年度末における借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントライン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">9,700 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,880 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">差引</td> <td style="text-align: right;">5,820 "</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">タームローン契約の総額</td> <td style="text-align: right;">8,835 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">8,835 "</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">差引</td> <td style="text-align: right;">"</td> </tr> </table> <p>また、上記それぞれの契約には下記の財務制限条項が付されております。なお、当該条項に抵触した場合には、多数貸付人の請求により、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。</p> <p>(財務制限条項)</p> <p>各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ264億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%かつ236億円以上に維持すること。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される営業損益が、平成19年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成20年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p> <p>各年度の決算期における単体の損益計算書に示される営業損益が、平成20年12月期以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。但し、平成21年12月期までの損失については考慮しないものとする。</p>	受取手形	489 百万円	支払手形	50 "	コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円	借入実行残高	3,880 "	差引	5,820 "			タームローン契約の総額	8,835 百万円	借入実行残高	8,835 "	差引	"
受取手形	759 百万円																																				
支払手形	10 "																																				
コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円																																				
借入実行残高	3,880 "																																				
差引	5,820 "																																				
タームローン契約の総額	9,300 百万円																																				
借入実行残高	9,300 "																																				
差引	"																																				
受取手形	489 百万円																																				
支払手形	50 "																																				
コミットメントライン契約の総額	9,700 百万円																																				
借入実行残高	3,880 "																																				
差引	5,820 "																																				
タームローン契約の総額	8,835 百万円																																				
借入実行残高	8,835 "																																				
差引	"																																				

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)
1 その他の収入は固定資産の賃貸収入であります。	1 その他の収入は固定資産の賃貸収入であります。
2 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。	2 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。
製品	製品
製造費振替 250 百万円	製造費振替 330 百万円
販売費及び一般管理費振替 288 "	販売費及び一般管理費振替 30 "
計 539 "	計 361 "
商品	商品
製造費振替 28 百万円	製造費振替 32 百万円
販売費及び一般管理費振替 3 "	販売費及び一般管理費振替 2 "
計 32 "	計 34 "
3 その他の原価の内容は次のとおりであります。	3 その他の原価の内容は次のとおりであります。
経費 440 百万円	経費 405 百万円
計 440 "	計 405 "
経費には減価償却費325百万円を含んでおります。	経費には減価償却費299百万円を含んでおります。
4 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。	4 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。
182 百万円	47 百万円
5 販売費に属する費用のおおよその割合は67%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は33%であります。	5 販売費に属する費用のおおよその割合は69%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は31%であります。
主要な費目及び金額は次のとおりであります。	主要な費目及び金額は次のとおりであります。
販売手数料 8 百万円	販売手数料 13 百万円
運送費 1,476 "	運送費 1,660 "
給料手当 1,396 "	給料手当 1,301 "
賞与 161 "	賞与 335 "
役員報酬 107 "	役員報酬 169 "
退職給付費用 126 "	退職給付費用 117 "
役員退職慰労引当金繰入額 30 "	役員退職慰労引当金繰入額 50 "
減価償却費 120 "	減価償却費 109 "
試験研究開発費 1,108 "	試験研究開発費 1,133 "
貸倒引当金繰入額 72 "	貸倒引当金繰入額 33 "
試験研究開発費には減価償却費330百万円を含んでおります。	試験研究開発費には減価償却費225百万円を含んでおります。
6 一般管理費に含まれる研究開発費は1,108百万円です。なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。	6 一般管理費に含まれる研究開発費は1,133百万円です。なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

前事業年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)																												
<p>7 このうち関係会社との取引によるものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">商品仕入高及び委託加工費等</td> <td style="text-align: right;">12,243 百万円</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">647 "</td> </tr> <tr> <td>受取ロイヤリティー及び受取利息等</td> <td style="text-align: right;">107 "</td> </tr> </table>	商品仕入高及び委託加工費等	12,243 百万円	受取配当金	647 "	受取ロイヤリティー及び受取利息等	107 "	<p>7 このうち関係会社との取引によるものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">商品仕入高及び委託加工費等</td> <td style="text-align: right;">14,204 百万円</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">604 "</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式売却益</td> <td style="text-align: right;">28 "</td> </tr> </table>	商品仕入高及び委託加工費等	14,204 百万円	受取配当金	604 "	関係会社株式売却益	28 "																
商品仕入高及び委託加工費等	12,243 百万円																												
受取配当金	647 "																												
受取ロイヤリティー及び受取利息等	107 "																												
商品仕入高及び委託加工費等	14,204 百万円																												
受取配当金	604 "																												
関係会社株式売却益	28 "																												
<p>8 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">27 百万円</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td style="text-align: right;">2 "</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">173 "</td> </tr> <tr> <td>車両及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">1 "</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">4 "</td> </tr> <tr> <td>電話加入権</td> <td style="text-align: right;">0 "</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">0 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">210 "</td> </tr> </table>	建物	27 百万円	構築物	2 "	機械及び装置	173 "	車両及び運搬具	1 "	工具器具及び備品	4 "	電話加入権	0 "	ソフトウェア	0 "	計	210 "	<p>8 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">土地</td> <td style="text-align: right;">3 百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">13 "</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">43 "</td> </tr> <tr> <td>車両及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">4 "</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">1 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">66 "</td> </tr> </table>	土地	3 百万円	建物	13 "	機械及び装置	43 "	車両及び運搬具	4 "	工具器具及び備品	1 "	計	66 "
建物	27 百万円																												
構築物	2 "																												
機械及び装置	173 "																												
車両及び運搬具	1 "																												
工具器具及び備品	4 "																												
電話加入権	0 "																												
ソフトウェア	0 "																												
計	210 "																												
土地	3 百万円																												
建物	13 "																												
機械及び装置	43 "																												
車両及び運搬具	4 "																												
工具器具及び備品	1 "																												
計	66 "																												
<p>9 減損損失 当事業年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 25%;">用途</th> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 45%;">金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川県仲多度郡 まんのう町</td> <td>光学フィルム 製造設備</td> <td>建設仮勘定</td> <td style="text-align: right;">745</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、事業用資産について管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っております。</p> <p>このうち、建設中の製造設備について、完成時に予定していた使用目的を大幅に変更した結果、投下資本回収力が著しく低下することとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（745百万円）として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを6.22%で割引いて算定しております。</p>	場所	用途	種類	金額 (百万円)	香川県仲多度郡 まんのう町	光学フィルム 製造設備	建設仮勘定	745	<p>9 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">79 百万円</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td style="text-align: right;">0 "</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">101 "</td> </tr> <tr> <td>車両及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">1 "</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">4 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">186 "</td> </tr> </table>	建物	79 百万円	構築物	0 "	機械及び装置	101 "	車両及び運搬具	1 "	工具器具及び備品	4 "	計	186 "								
場所	用途	種類	金額 (百万円)																										
香川県仲多度郡 まんのう町	光学フィルム 製造設備	建設仮勘定	745																										
建物	79 百万円																												
構築物	0 "																												
機械及び装置	101 "																												
車両及び運搬具	1 "																												
工具器具及び備品	4 "																												
計	186 "																												

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年 1月 1日 至 平成21年12月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
自己株式				
普通株式	776,795	34,755		811,550
合計	776,795	34,755		811,550

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

当事業年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
自己株式				
普通株式	811,550	39,745		851,295
合計	811,550	39,745		851,295

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日)	当事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)																																																																									
<p>1. リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">取得価額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">減価償却 累計額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">減損損失 累計額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">期末残高 相当額</th> </tr> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">390</td> <td style="text-align: right;">255</td> <td style="text-align: right;">88</td> <td style="text-align: right;">46</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">50</td> <td style="text-align: right;">37</td> <td style="text-align: right;">12</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">440</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">293</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">100</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">46</td> </tr> </tbody> </table> <p>未經過リース料期末残高相当額等 未經過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">1年以内</td> <td style="text-align: right;">59 百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">19 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">78 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>リース資産減損勘定期末残高 17 百万円</p> <p>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">115 百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td style="text-align: right;">45 "</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">66 "</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">2 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p>		取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	減損損失 累計額 相当額	期末残高 相当額		(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	機械及び装置	390	255	88	46	工具器具及び備品	50	37	12	0	合計	440	293	100	46	1年以内	59 百万円	1年超	19 "	合計	78 "	支払リース料	115 百万円	リース資産減損勘定の取崩額	45 "	減価償却費相当額	66 "	支払利息相当額	2 "	<p>1. リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">取得価額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">減価償却 累計額 相当額</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">期末残高 相当額</th> </tr> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> <th style="text-align: center;">(百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">86</td> <td style="text-align: right;">68</td> <td style="text-align: right;">18</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">8</td> <td style="text-align: right;">7</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">94</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">76</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">18</td> </tr> </tbody> </table> <p>未經過リース料期末残高相当額等 未經過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">1年以内</td> <td style="text-align: right;">17 百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">2 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">19 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>リース資産減損勘定期末残高 0 百万円</p> <p>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">62 百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td style="text-align: right;">17 "</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">41 "</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">0 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>利息相当額の算定方法 同左</p>		取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	期末残高 相当額		(百万円)	(百万円)	(百万円)	機械及び装置	86	68	18	工具器具及び備品	8	7	0	合計	94	76	18	1年以内	17 百万円	1年超	2 "	合計	19 "	支払リース料	62 百万円	リース資産減損勘定の取崩額	17 "	減価償却費相当額	41 "	支払利息相当額	0 "
	取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	減損損失 累計額 相当額	期末残高 相当額																																																																						
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)																																																																						
機械及び装置	390	255	88	46																																																																						
工具器具及び備品	50	37	12	0																																																																						
合計	440	293	100	46																																																																						
1年以内	59 百万円																																																																									
1年超	19 "																																																																									
合計	78 "																																																																									
支払リース料	115 百万円																																																																									
リース資産減損勘定の取崩額	45 "																																																																									
減価償却費相当額	66 "																																																																									
支払利息相当額	2 "																																																																									
	取得価額 相当額	減価償却 累計額 相当額	期末残高 相当額																																																																							
	(百万円)	(百万円)	(百万円)																																																																							
機械及び装置	86	68	18																																																																							
工具器具及び備品	8	7	0																																																																							
合計	94	76	18																																																																							
1年以内	17 百万円																																																																									
1年超	2 "																																																																									
合計	19 "																																																																									
支払リース料	62 百万円																																																																									
リース資産減損勘定の取崩額	17 "																																																																									
減価償却費相当額	41 "																																																																									
支払利息相当額	0 "																																																																									

(有価証券関係)

前事業年度

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式10,987百万円、関連会社株式505百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成21年12月31日)	当事業年度 (平成22年12月31日)																																																																																																										
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(1) 流動資産 (繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">6 百万円</td></tr> <tr><td>貯蔵品処分損</td><td style="text-align: right;">24 "</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">71 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">8 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 小計</td><td style="text-align: right;">111 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">111 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 合計</td><td style="text-align: right;">"</td></tr> </table> <p>(2) 固定負債 (繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">76 百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">25 "</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">235 "</td></tr> <tr><td>関係会社株式</td><td style="text-align: right;">221 "</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">706 "</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">1,635 "</td></tr> <tr><td>固定資産除却損</td><td style="text-align: right;">74 "</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">2,200 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">6 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 小計</td><td style="text-align: right;">5,181 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">5,181 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 合計</td><td style="text-align: right;">"</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">352 百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債 合計</td><td style="text-align: right;">352 "</td></tr> </table> <p>繰延税金負債の純額 352 百万円</p>	未払事業税	6 百万円	貯蔵品処分損	24 "	たな卸資産評価損	71 "	その他	8 "	<hr/>		繰延税金資産 小計	111 "	評価性引当額	111 "	<hr/>		繰延税金資産 合計	"	役員退職慰労引当金	76 百万円	貸倒引当金	25 "	投資有価証券評価損	235 "	関係会社株式	221 "	退職給付引当金	706 "	減損損失	1,635 "	固定資産除却損	74 "	繰越欠損金	2,200 "	その他	6 "	<hr/>		繰延税金資産 小計	5,181 "	評価性引当額	5,181 "	<hr/>		繰延税金資産 合計	"	その他有価証券評価差額金	352 百万円	<hr/>		繰延税金負債 合計	352 "	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(1) 流動資産 (繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">12 百万円</td></tr> <tr><td>貯蔵品処分損</td><td style="text-align: right;">24 "</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">28 "</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">276 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">11 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 小計</td><td style="text-align: right;">354 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">36 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 合計</td><td style="text-align: right;">318 "</td></tr> </table> <p>(2) 固定負債 (繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">91 百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">24 "</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">243 "</td></tr> <tr><td>関係会社株式</td><td style="text-align: right;">378 "</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">771 "</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">1,424 "</td></tr> <tr><td>固定資産除却損</td><td style="text-align: right;">175 "</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,642 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">88 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 小計</td><td style="text-align: right;">4,840 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">4,626 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産 合計</td><td style="text-align: right;">214 "</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">273 百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債 合計</td><td style="text-align: right;">273 "</td></tr> </table> <p>繰延税金負債の純額 59 百万円</p>	未払事業税	12 百万円	貯蔵品処分損	24 "	たな卸資産評価損	28 "	繰越欠損金	276 "	その他	11 "	<hr/>		繰延税金資産 小計	354 "	評価性引当額	36 "	<hr/>		繰延税金資産 合計	318 "	役員退職慰労引当金	91 百万円	貸倒引当金	24 "	投資有価証券評価損	243 "	関係会社株式	378 "	退職給付引当金	771 "	減損損失	1,424 "	固定資産除却損	175 "	繰越欠損金	1,642 "	その他	88 "	<hr/>		繰延税金資産 小計	4,840 "	評価性引当額	4,626 "	<hr/>		繰延税金資産 合計	214 "	その他有価証券評価差額金	273 百万円	<hr/>		繰延税金負債 合計	273 "
未払事業税	6 百万円																																																																																																										
貯蔵品処分損	24 "																																																																																																										
たな卸資産評価損	71 "																																																																																																										
その他	8 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 小計	111 "																																																																																																										
評価性引当額	111 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 合計	"																																																																																																										
役員退職慰労引当金	76 百万円																																																																																																										
貸倒引当金	25 "																																																																																																										
投資有価証券評価損	235 "																																																																																																										
関係会社株式	221 "																																																																																																										
退職給付引当金	706 "																																																																																																										
減損損失	1,635 "																																																																																																										
固定資産除却損	74 "																																																																																																										
繰越欠損金	2,200 "																																																																																																										
その他	6 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 小計	5,181 "																																																																																																										
評価性引当額	5,181 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 合計	"																																																																																																										
その他有価証券評価差額金	352 百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金負債 合計	352 "																																																																																																										
未払事業税	12 百万円																																																																																																										
貯蔵品処分損	24 "																																																																																																										
たな卸資産評価損	28 "																																																																																																										
繰越欠損金	276 "																																																																																																										
その他	11 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 小計	354 "																																																																																																										
評価性引当額	36 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 合計	318 "																																																																																																										
役員退職慰労引当金	91 百万円																																																																																																										
貸倒引当金	24 "																																																																																																										
投資有価証券評価損	243 "																																																																																																										
関係会社株式	378 "																																																																																																										
退職給付引当金	771 "																																																																																																										
減損損失	1,424 "																																																																																																										
固定資産除却損	175 "																																																																																																										
繰越欠損金	1,642 "																																																																																																										
その他	88 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 小計	4,840 "																																																																																																										
評価性引当額	4,626 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産 合計	214 "																																																																																																										
その他有価証券評価差額金	273 百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金負債 合計	273 "																																																																																																										
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4 %</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入 されない項目</td><td style="text-align: right;">0.2 "</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入 されない項目</td><td style="text-align: right;">12.8 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">53.0 "</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">1.3 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等 の負担率</td><td style="text-align: right;">1.3 "</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4 %	(調整)		交際費等永久に損金に算入 されない項目	0.2 "	受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	12.8 "	評価性引当額の増減	53.0 "	住民税均等割	1.3 "	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等 の負担率	1.3 "	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4 %</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入 されない項目</td><td style="text-align: right;">2.8 "</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入 されない項目</td><td style="text-align: right;">100.8 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">245.5 "</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">10.9 "</td></tr> <tr><td>連結納税適用による影響</td><td style="text-align: right;">12.5 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2.7 "</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等 の負担率</td><td style="text-align: right;">382.8 "</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4 %	(調整)		交際費等永久に損金に算入 されない項目	2.8 "	受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	100.8 "	評価性引当額の増減	245.5 "	住民税均等割	10.9 "	連結納税適用による影響	12.5 "	その他	2.7 "	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等 の負担率	382.8 "																																																																						
法定実効税率	40.4 %																																																																																																										
(調整)																																																																																																											
交際費等永久に損金に算入 されない項目	0.2 "																																																																																																										
受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	12.8 "																																																																																																										
評価性引当額の増減	53.0 "																																																																																																										
住民税均等割	1.3 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	1.3 "																																																																																																										
法定実効税率	40.4 %																																																																																																										
(調整)																																																																																																											
交際費等永久に損金に算入 されない項目	2.8 "																																																																																																										
受取配当金等永久に益金に算入 されない項目	100.8 "																																																																																																										
評価性引当額の増減	245.5 "																																																																																																										
住民税均等割	10.9 "																																																																																																										
連結納税適用による影響	12.5 "																																																																																																										
その他	2.7 "																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
税効果会計適用後の法人税等 の負担率	382.8 "																																																																																																										

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当事業年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり純資産額	463.87 円	473.99 円
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額()	37.28 円	11.87 円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当期純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度末 (平成21年12月31日)	当事業年度末 (平成22年12月31日)
純資産の部の合計額	28,418 百万円	29,019 百万円
純資産の部の合計額から控除する金額		
普通株主に係る期末の純資産額	28,418 百万円	29,019 百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式数	61,262 千株	61,223 千株

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当事業年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額		
当期純利益又は当期純損失()	2,284 百万円	726 百万円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失	2,284 百万円	726 百万円
普通株式の期中平均株式数	61,276 千株	61,243 千株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	住友林業(株)	1,165,000	830
		(株)伊予銀行	600,592	390
		(株)百十四銀行	1,055,750	315
		JSR(株)	183,800	278
		(株)中国銀行	255,264	250
		住友化学(株)	530,189	212
		大日精化工業(株)	401,000	178
		北陸電力(株)	80,600	160
		(株)ヤクルト本社	64,767	151
		東北電力(株)	80,400	145
		北海道電力(株)	70,800	117
		すてきナイスグループ(株)	587,455	105
		住友商事(株)	90,358	103
		中部電力(株)	50,000	99
		四国電力(株)	40,200	95
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	217,120	95
		その他(67銘柄)	2,571,810	1,393
		計	8,045,106	4,924

【その他】

		銘柄	投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	証券投資信託受益証券(3銘柄)	100,000,001	69
		計	100,000,001	69

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末 残高 (百万円)	当期 増加額 (百万円)	当期 減少額 (百万円)	当期末 残高 (百万円)	当期末 減価償却 累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期末 減損損失 累計額 (百万円)	当期 償却額 (百万円)	差引 当期末 残高 (百万円)
有形固定資産								
建物	32,952	427	282	33,097	16,353	1,939	887	14,804
構築物	1,689	25	3	1,712	1,321	47	48	343
機械及び装置	45,700	1,408	1,236	45,873	35,433	793	3,447	9,646
車両運搬具	491	70	36	524	436	1	56	86
工具、器具及び備品	2,355	113	85	2,384	2,108	12	97	263
土地	5,560		1	5,558				5,558
リース資産	19	6		25	9		5	16
建設仮勘定	1,063	2,508	2,046	1,526				1,526
有形固定資産計	89,833	4,560	3,690	90,702	55,663	2,795	4,542	32,243
無形固定資産								
借地権				12				12
施設利用権				17	17	0	0	0
電話加入権				20		0		20
ソフトウェア				263	213		29	50
無形固定資産計				314	230	0	29	82
長期前払費用	0	5	1	4	1		1	2
繰延資産								
繰延資産計								

(注) 1. 当期増加額のうち、重要なものは次のとおりであります。

建物	仲南工場	クリーンキャスト工場 他	248百万円
機械及び装置	仲南工場	電子材料用保護フィルム製造設備 他	710百万円
機械及び装置	詫間工場	パーティクルボード製造設備 他	158百万円

2. 当期減少額のうち、重要なものは次のとおりであります。

機械及び装置	R & Dセンター	溶剤キャスト設備 他	342百万円
機械及び装置	丸亀第四工場	合成樹脂フィルム製造設備 他	320百万円

3. 建設仮勘定の当期増加額及び当期減少額は主として、上記(注) 1. に記載した建物、機械及び装置の増加内容と同様であります。

4. 無形固定資産は、資産総額の100分の1以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	314	225	11	194	334
役員退職慰労引当金	189	50	12		227
建物等除却損失引当金		129			129

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額192百万円及び個別引当の対象としていた債権が回収されたことによる戻入額2百万円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(平成22年12月31日現在)における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	22
預金	
普通預金	4,894
定期預金	20
計	4,914
合計	4,937

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)マルカワ	209
シーアイマテックス(株)	158
ザ・パック(株)	105
(株)行吉テント商会	90
三協商事(株)	89
その他	5,267
合計	5,919

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成23年1月	1,320
平成23年2月	1,432
平成23年3月	1,614
平成23年4月	1,272
平成23年5月	172
平成23年6月	18
平成23年7月以降	88
合計	5,919

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
住友化学(株)	4,366
JSR(株)	509
NI 帝人商事(株)	386
ナガセプラスチック(株)	371
越智産業(株)	365
その他	11,680
合計	17,680

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	次期繰越高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
13,866	62,219	58,406	17,680	76.76	92.53

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれております。

たな卸資産

商品及び製品

区分	金額(百万円)
商品	
合成樹脂関係	60
新規材料関係	196
建材関係	9
計	267
製品	
合成樹脂関係	2,133
新規材料関係	220
加工合板	162
パーティクルボード	37
加工ボード	28
部材関係	45
計	2,629
合計	2,896

仕掛品

区分	金額(百万円)
合成樹脂関係	271
加工合板	55
パーティクルボード	126
加工ボード	15
部材加工	8
合計	477

原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	
合成樹脂製品関係 (合成樹脂原料・着色剤・インキ他)	740
新規材料製品関係 (プラスチックフィルム・染料他)	898
加工合板関係 (購入合板・印刷シート他)	82
パーティクルボード関係 (チップ材・接着剤他)	33
加工ボード関係 (購入ボード・印刷シート他)	34
部材製品関係 (基材・エッジ他)	8
計	1,796
貯蔵品	
荷造包装材料	43
消耗品他	492
計	535
合計	2,332

関係会社株式

	銘柄	金額(百万円)
子会社株式	(株)九州オークラ	3,382
	(株)関西オークラ	2,407
	(株)関東オークラ	1,614
	(株)オークラプロダクツ香川	1,321
	(株)OKプロダクツ岡山	1,092
	その他	1,169
	計	10,987
関連会社株式	オー・エル・エス(有)	500
	その他	5
	計	505
合計		11,493

支払手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
CBC(株)	226
ケーエフフィルム(株)	204
昭光通商(株)	129
北四国運輸倉庫(株)	118
住友林業(株)	96
その他	866
合計	1,642

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成23年 1 月	397
平成23年 2 月	389
平成23年 3 月	370
平成23年 4 月	301
平成23年 5 月	156
平成23年 6 月	26
合計	1,642

買掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
住友化学(株)	5,517
オー・エル・エス(有)	2,012
(株)関西オークラ	722
(株)プライムポリマー	591
(株)九州オークラ	529
その他	9,442
合計	18,815

短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)中国銀行	4,920
(株)伊予銀行	1,840
(株)百十四銀行	1,340
(株)香川銀行	1,000
(株)四国銀行	550
その他	1,180
合計	10,830

長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)中国銀行	3,038
(株)百十四銀行	1,467
日本生命保険相互会社	1,170
(株)みずほコーポレート銀行	1,020
(株)伊予銀行	966
その他	2,563
合計	10,224

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜2丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	次の算式により算出した単元株式数当たりの金額を買取株式数で按分した額 (算式) 1株当たりの売買価格に1単元の株式数を乗じた金額のうち 100万円以下の金額につき 1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900% 500万円を超え1,000万円以下の金額につき 0.700% 1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき 0.575% 3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき 0.375% (円未満の端数を生じた場合には切り捨てる。) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には、2,500円とする。
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.okr-ind.co.jp/okhp/w.html
株主に対する特典	オークラホテル丸亀、オークラホテル高松、岡山ビジネスホテル及び岡山ビジネスホテル アネックスの「宿泊優待券」(宿泊基本料金の30%割引券及び喫茶〔コーヒー又は紅茶〕の無料券等)を贈呈する。 1,000株以上 5,000株未満 1冊 5,000株以上 10,000株未満 2冊 10,000株以上 3冊

(注) 単元未満株式についての権利

当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及び その添付書類並びに 有価証券報告書の確認書	事業年度 (第90期)	自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日	平成22年3月25日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書及び その添付書類			平成22年3月25日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書、四半期 報告書の確認書	(第91期 第1四半期)	自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日	平成22年5月13日 関東財務局長に提出
	(第91期 第2四半期)	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	平成22年8月11日 関東財務局長に提出
	(第91期 第3四半期)	自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	平成22年11月11日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 3月25日

大倉工業株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北田 隆 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高田 武 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大倉工業株式会社の平成21年1月1日から平成21年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大倉工業株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、大倉工業株式会社の平成21年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全に防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、大倉工業株式会社が平成21年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年3月24日

大倉工業株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北田 隆 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高田 武 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大倉工業株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大倉工業株式会社及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、大倉工業株式会社の平成22年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全に防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、大倉工業株式会社が平成22年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成22年3月25日

大倉工業株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北田 隆 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高田 武 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大倉工業株式会社の平成21年1月1日から平成21年12月31日までの第90期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大倉工業株式会社の平成21年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成23年3月24日

大倉工業株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北田 隆 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高田 武 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大倉工業株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの第91期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大倉工業株式会社の平成22年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。